

令和7年度

茨城県立医療大学大学院
保健医療科学研究科の概要

【博士前期課程】

保健医療科学専攻

【博士後期課程】

保健医療科学専攻

茨城県立医療大学

目 次

【博士前期課程】

1	目 的	1
2	学生定員	1
3	修業年限	1
4	学 位	1
5	教育課程	1
	(1) 教育目標	1
	(2) 特 色	1
	(3) 履修基準	3
	(4) 修了要件	4
	(5) 各領域における授業科目及び履修例	
	・看護学領域	5
	・理学療法学・作業療法学領域	7
	・放射線技術科学領域	8
	・医科学領域	9
6	講義等の内容	
	・基礎科目	10
	・看護学領域応用科目	12
	・理学療法学・作業療法学領域応用科目	24
	・放射線技術科学領域応用科目	29
	・医科学領域応用科目	34
7	指導教員と研究概要	36

目 次

【博士後期課程】

1	目 的	40
2	学生定員	40
3	修業年限	40
4	学 位	40
5	教育課程	40
	(1) 教育目標	40
	(2) 特 色	40
	(3) 履修基準	42
	(4) 修了要件	42
	(5) 各領域における授業科目及び履修例	44
6	講義等の内容	47
7	指導教員と研究概要	57

【博士前期課程】

1 理念・目的

茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科博士前期課程は、人間性の尊重を基本として、保健医療に関する学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力等を養い、学術文化の発展に寄与することを目的とする。専門分野における基礎的研究能力を備え、地域の保健医療の質的向上等に寄与できる専門職を育成し、同時に各学問領域の基盤形成を目指す。

2 学生定員

専攻	領域	入学定員	収容定員
保健医療科学専攻	看護学 理学療法学・作業療法学 放射線技術科学 医科学	18名	36名

3 修業年限

2年

4 学位

看護学領域	修士（看護学）
理学療法学・作業療法学領域	修士（理学療法学）又は修士（作業療法学）
放射線技術科学領域	修士（放射線技術科学）
医科学領域	修士（医科学）

5 教育課程等

(1) 教育目標

本大学院博士前期課程では、以下に示す人材を育成する。

<育成する人材像>

- (ア) Society5.0 社会を力強く生きる高度医療専門職人と知的素養豊かな地域の人材の養成、および本学の潜在的な教育研究環境のメリットを活かした人材の育成
- (イ) 医学医療系を中心とする学問分野横断的共創と、地域における医療系の多職種協働を推進する人材の育成
- (ウ) これらの学際的教育研究と社会実装を視野に入れた地域貢献のための自己発展性豊かな人材の育成

(2) 特色

<教育課程編成の考え方>

本大学院では、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

1. 保健医療分野、関連する学際分野、融合分野に必要な専門的知識と研究能力を獲得するため、「基礎科目」と「応用科目」の2つの基本的枠組みをもって体系的にカリキュラムを構成する。
2. 保健医療科学全般において共通基盤となる視点や能力を涵養し、幅広く深い教養と分野横断的な研究の創出への意欲を育成するため、「基礎科目」を開設する。
3. 領域ごとに深い高度な専門知識を修得できる科目「応用科目」を開設する。
4. 広い視野や複眼的思考能力を身に付けるため、学生の希望に応じて、専門領域以外の「応用科

目」の履修を可能とし、複数領域の高度な専門的知見に触れる機会を提供する。

5. 複雑化する保健医療の課題発見能力や課題解決能力の涵養のため、研究指導は、主指導教員と専門の異なる副指導教員との複数指導で行う「特別研究」を開設する。

<科目の区分及び科目の概要>

ア 基礎科目は、保健医療科学専攻の4つの領域（看護学領域、理学療法・作業療法領域、放射線技術科学領域、医科学領域）すべての大学院生を対象として、保健医療科学専攻における学問領域横断的共創のプラットフォームとなる専門的知識、論理的かつ批判的思考力、多職種でのコミュニケーション能力などを高い水準で身につけることを目的として開設する。

イ 看護学領域では、教育研究領域である基礎看護学領域（基礎看護学、看護管理学）、地域看護学領域、臨床看護学領域（母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学）のいずれかの領域で修士論文を作成するコース（修士論文コース）と、臨床看護学領域において小児看護学、老年看護学及び精神看護学の専門看護師を目指すためのコース（CNSコース）の2コースを設けています。

看護学領域の専門科目は、「看護学共通科目」と「領域別専門科目」に分け、看護学共通科目では、各教育研究領域に共通の基礎となる「看護理論」「看護と研究」等の科目を指導教員の指定又は選択により履修し、区分別専門科目では、指導教員の指導により講義及び演習を系統的に履修し、専門分野の研究能力を高めます。

ウ 理学療法学・作業療法学領域では、理念と方法に共通する部分が多い理学療法学科と作業療法学科を基礎とした領域で、理学療法学・作業療法学専門共通区分、理学療学区分、作業療学区分の3つの区分を設けています。

理学療法学・作業療法学専門共通区分では、研究指導に結びつく領域として障害別のリハビリテーション、地域リハビリテーションについて教育研究を行い、理学療法学・作業療法学を含むリハビリテーション学についての幅広い視野を獲得することを目指します。

理学療学区分、作業療学区分では、理学療法学又は作業療法学の理論的、実証的研究を行い、それぞれの分野の知識の深化と技術開発力の育成を目指します。

特に、これらの領域では、リハビリテーション専門病院である附属病院の場を利用し、実証的な教育研究を行えるよう教育課程を構成しています。

エ 放射線技術科学領域では、専門コースと医学物理コース（MPコース）の2コースを設けています。

専門コースでは、医用画像技術学、核医学技術学、放射線治療技術学で、それぞれ最先端の教育、研究を行い、放射線技術科学について専門的に広い視野を獲得することを目指します。さらに専門の区分を越えて関連する他区分の科目も選択し、専門知識を幅広いものにするよう配慮しています。それぞれの区分では、近隣の研究施設との共同研究も行なっており、また附属病院ではX線撮影装置、CT検査装置、MRI、核医学検査装置等が整備され、基礎と臨床の結びついた研究が行なえる体制が整っています。また、原子力施設を多く受け入れている本県の立地特徴を背景に、公正性、論理性に優れた放射線管理者の育成も可能とする教育課程としています。

MPコースでは、学部の教育内容を踏まえて、高度な医用放射線技術の専門職を養成するとともに、医学物理士となり得る基本的能力を養います。医学物理士としては放射線診断、治療、核医学のそれぞれの専門領域の知識・技能が必要であるため、各領域にMPコースを設けます。

オ 医科学領域では、幅広い関連学部・学科（言語療法学、臨床工学、心理学、薬学、栄養学、臨床検査学、社会福祉学、農学、工学、情報、生物、社会学、法律学、倫理学など）からの学生の受け

入れに対応するため、医科学領域の「応用科目」を開設する。

カ 授業は、主に夜間帯（18：30～21：40）及び週末等を実施し、一部の科目を除き遠隔授業としております。これにより、在職しながら大学院に就学することができます。なお、一部の授業は昼間帯に実施する場合があります。

(3) 履修基準

【看護学領域】

科目区分			修士論文コース	CNSコース
基礎科目			4単位以上	2単位以上
応用科目	看護学共通科目	必修	4単位*	12単位以上 (必修科目12単位**を含む)
		選択	6単位以上	
	区分別専門科目		8単位以上	14単位 (必修科目2単位***を含む)
特別研究等	特別研究		8単位	
	実習			10単位
	課題研究			2単位
合計			30単位以上	42単位以上

* 看護理論 2単位、看護と研究 2単位

** 看護理論 2単位、看護と研究 2単位、看護倫理 2単位、臨床薬理学 2単位、病態生理学 2単位、フィジカルアセスメント 2単位

***看護管理特論 2単位

【理学療法学・作業療法学領域】

科目区分		履修単位数
基礎科目		4単位以上
応用科目	理学療法学・作業療法学専門共通区分	6単位以上
	理学療法学区分又は作業療法学区分	12単位
特別研究	特別研究	8単位
合計		30単位以上

【放射線技術科学領域】

科目区分		専門コース	MPコース
基礎科目		4単位以上	
応用科目	選択した1領域の科目（専門コースは、所定の科目*を除き、MPコースは所定の科目*のうち総合の付く特論を除く。）	14単位	14単位
	他区分の科目（所定の科目*は除く。）	4単位以上	
	他区分の所定の科目*		4単位以上
特別研究	特別研究	8単位	
合計		30単位以上	

- * 総合画像情報特論、総合核医学特論、基礎医学物理学、医学物理学実習、総合放射線治療特論、高度専門放射線治療技術学特論

【医科学領域】

科目区分		履修単位数
基礎科目		6単位以上
応用科目	医科学領域の専門科目（8単位以上）	16単位以上
	医科学領域以外の専門科目（8単位以上）	
特別研究	特別研究	8単位
合 計		30単位以上

(4) 修了要件

2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとします。

ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については1年以上在学すれば足りるものとします。

(5) 各領域における授業科目及び履修例

看護学領域	・・・・・・・・	5ページを参照
理学療法学・作業療法学領域	・・・・・・・・	7ページを参照
放射線技術科学領域	・・・・・・・・	8ページを参照
医科学領域	・・・・・・・・	9ページを参照

6 講義等の内容

10ページから35ページまでを参照

7 指導教員と研究概要

看護所属教員分	・・・・・・・・	36ページを参照
理学療法学・作業療法学所属教員分	・・・・・・・・	37ページを参照
放射線技術科学所属教員分	・・・・・・・・	38ページを参照
人間科学センター、医科学センター所属教員分	・・・・・・・・	39ページを参照

【博士前期課程】

各領域における授業科目及び履修例

看護学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	単位数	基礎看護学区分 (修士論文コース)				臨床看護学区分				精神看護学 (修士論文コース)	
			基礎看護学区分 (修士論文コース)	地域看護学区分 (修士論文コース)	母性看護学 (修士論文コース)	小児看護学 (修士論文コース)	成人看護学 (修士論文コース)	老年看護学 (修士論文コース)				
基礎科目	研究計画法と研究倫理	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	健康統計学	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎科目	人間と医療、そして社会	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	環境医学	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
看護学 共通科目	医療教育学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	医療と教育論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
看護学 共通科目	看護理論*	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護理論*	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
看護学 共通科目	看護実践特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	臨床薬理学	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
看護学 共通科目	看護生理学	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	フィジカルアセスメント	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎看護学特論	基礎看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	基礎看護学演習 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎看護学	基礎看護学演習 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護管理学特論*	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎看護学	看護管理学演習 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護管理学演習 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
地域看護学特論	地域看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	地域看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
地域看護学	地域看護学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	公衆衛生学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性看護学	ワイメンズヘルス特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ワイメンズヘルス看護特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性看護学	ワイメンズヘルス看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ワイメンズヘルス看護学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児看護学	小児科学	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児看護学	小児看護学演習 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児看護学演習 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人看護学	成人看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	成人看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人看護学	成人看護学演習 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	成人看護学演習 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年看護学	老年看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	高齢者ケアシステム論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年看護学	高齢者特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	高齢者健康評価論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年看護学	高齢者生活援助論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	老年看護学演習 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年看護学	老年看護学演習 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	精神看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
精神看護学	精神評価方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	精神治療方法論 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
精神看護学	精神治療方法論 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	精神看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
特別研究	精神看護学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	救急・急性期精神看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
特別研究	地域精神保健特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	合計	8	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

看護学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	単位数	臨床看護学区分		
			小児看護学 (CNSコース)	老年看護学 (CNSコース)	精神看護学 (CNSコース)
基礎科目	研究計画法と研究倫理	2	●	●	●
	健康統計学	2	●	●	●
	人間と医療、そして社会	2	●	●	●
	臨床医科学	2	●	●	●
	医療教育学特論	2	●	●	●
	医療と教育論	2	●	●	●
	看護理論*	2	●	●	●
	看護と研究*	2	●	●	●
	看護倫理*	2	●	●	●
	家族看護学	2	●	●	●
看護学共通科目	看護学実習*	2	●	●	●
	臨床薬理学*	2	●	●	●
	病態生理学*	2	●	●	●
	フィジカルアセスメント*	2	●	●	●
	基礎看護学特論	2	●	●	●
	基礎看護学演習 I	2	●	●	●
	基礎看護学演習 II	2	●	●	●
	看護管理学特論*	2	●	●	●
	看護管理学演習 I	2	●	●	●
	看護管理学演習 II	2	●	●	●
地域看護学	地域看護学特論	2	●	●	●
	地域看護学方法論	2	●	●	●
	地域看護学演習	2	●	●	●
	公衆衛生学特論	2	●	●	●
	ワイメンズヘルス特論	2	●	●	●
	ワイメンズヘルス看護特論	2	●	●	●
	ワイメンズヘルス看護学方法論	2	●	●	●
	ワイメンズヘルス看護学演習	2	●	●	●
	小児科学	2	●	●	●
	小児看護学特論	2	●	●	●
小児看護学	小児サポートシステム論	2	●	●	●
	小児看護マネジメント論	2	●	●	●
	小児健康評価演習	2	●	●	●
	小児看護援助演習	2	●	●	●
	小児看護応用演習	2	●	●	●
	成人看護学特論	2	●	●	●
	成人看護学方法論	2	●	●	●
	成人看護学演習 I	2	●	●	●
	成人看護学演習 II	2	●	●	●
	老年看護学特論	2	●	●	●
臨床看護学	高齢者サポートシステム論	2	●	●	●
	高齢者病態論	2	●	●	●
	高齢者健康評価論	2	●	●	●
	高齢者生活援助	2	●	●	●
	老年看護学演習 I	2	●	●	●
	老年看護学演習 II	2	●	●	●
	精神看護学特論	2	●	●	●
	精神評価方法論	2	●	●	●
	精神治療方法論 I	2	●	●	●
	精神治療方法論 II	2	●	●	●
実習(CNSコース)	精神看護学方法論	2	●	●	●
	精神看護学演習	2	●	●	●
	救急・急性期精神看護学特論	2	●	●	●
	救急(CNSコース)	10	●	●	●
	課題研究(CNSコース)	2	●	●	●
	合計		4.2単位以上	4.2単位以上	4.2単位以上

注 *印のついた科目はCNSコース必修科目

理学療法学・作業療法学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	単位数	理学療法学・作業療法学専門共通区分 (運動障害リハビリテーション学の例)	理学療法学区分	作業療法学区分	
基礎科目	研究計画法と研究倫理	2	●	●	●	
	健康統計学	2	●	●	●	
	人間と医療、そして社会	2	●	4 単位以上	4 単位以上	
	環境医科学	2	●	●	●	
	医療教育学特論	2				
	医療と教育論	2				
	運動障害リハビリテーション学特論	2	●	4 単位	●	
	運動障害リハビリテーション学特論演習	2	●		●	
	神経障害リハビリテーション学特論	2	●	6 単位以上	●	
	神経障害リハビリテーション学特論演習	2	●	2 単位以上	●	
理学療法学・作業療法学 専門共通	地域リハビリテーション学特論	2	●	●	●	
	地域リハビリテーション学特論演習	2	●	●	●	
	理学療法学理論特論	2	●	●	●	
	理学療法学理論特論演習	2	●	●	●	
	運動・動作解析学特論	2	●	1 2 単位	●	
	運動・動作解析学特論演習	2	●	●	●	
	運動機能障害理学療法学特論	2	●	●	●	
	運動機能障害理学療法学特論演習	2	●	●	●	
	作業科学特論	2			●	
	作業科学特論演習	2			●	
作業療法学	活動障害解析・評価学特論	2			●	
	活動障害解析・評価学特論演習	2			●	
	活動障害治療・介入学特論	2			●	
	活動障害治療・介入学特論演習	2			●	
	地域支援作業療法学特論	2			●	
	地域支援作業療法学特論演習	2			●	
	特別研究	8	●	8 単位	●	
	合計			30 単位以上	●	8 単位 30 単位以上

放射線技術科学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	医用画像技術学		核医学技術学		放射線治療技術学	
		(専門コース)	(MPコース)	(専門コース)	(MPコース)	(専門コース)	(MPコース) 注5
基礎科目	研究計画法と研究倫理	●	●	●	●	●	●
	健康統計学	●	●	●	●	●	●
	人間と医療、そして社会	●	●	●	●	●	●
	環境医学科学	●	●	●	●	●	●
	医療教育学特論						
	医療と教育論						
	医用画像情報学特論	●	●	●	●	●	●
	医用画像評価学特論	●	●	●	●	●	●
	医用画像解剖学特論	●	●	●	●	●	●
	医用画像解剖学特論★	●	●	●	●	●	●
医用画像技術学	医療情報学特論	●	●	●	●	●	●
	画像検査技術学演習Ⅰ	●	●	●	●	●	●
	画像検査技術学演習Ⅱ★	●	●	●	●	●	●
	総合画像情報特論	●	●	●	●	●	●
	核医学情報解剖学特論	●	●	●	●	●	●
	核医学技術学特論	●	●	●	●	●	●
	生体機能画像特論	●	●	●	●	●	●
	生体情報解剖学特論	●	●	●	●	●	●
	放射線安全管理学特論	●	●	●	●	●	●
	核医学技術学演習Ⅰ	●	●	●	●	●	●
核医学技術学	核医学技術学演習Ⅱ★	●	●	●	●	●	●
	総合核医学特論	●	●	●	●	●	●
	基礎医学物理学	●	●	●	●	●	●
	放射線治療技術学特論	●	●	●	●	●	●
	放射線腫瘍学特論	●	●	●	●	●	●
	線量計測学特論	●	●	●	●	●	●
	先端放射線治療学特論	●	●	●	●	●	●
	高度専門放射線治療技術学特論▲	●	●	●	●	●	●
	医療機器システム学特論	●	●	●	●	●	●
	放射線治療技術学演習Ⅰ	●	●	●	●	●	●
放射線治療技術学	放射線治療技術学演習Ⅱ★	●	●	●	●	●	●
	医学物理学実習★	●	●	●	●	●	●
	総合放射線治療特論	●	●	●	●	●	●
	特別研究	●	●	●	●	●	●
	合計	8	8	8	8	8	8
		30単位以上		30単位以上		30単位以上	

注1 MPコースは、専攻領域以外の専門科目2科目4単位以上を履修する。
 注2 ★のついた科目は2年次での履修が望ましい。
 注3 ●の付いていない科目も履修可能
 注4 がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プランのコースを受講する場合は、▲のついた科目を履修する。
 注5 MPコースでは、通常のMPコースとがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プランのコースをが用意されている。

医科学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	単位数	医科学領域
基礎科目	研究計画法と研究倫理	2 ●	}
	健康統計学	2 ●	
	人間と医療、そして社会	2 ●	
	環境医科学	2 ●	
	医療教育学特論	2	}
	医療と教育論	2	
	基礎医科学入門	2 ●	
	神経科学：細胞、動物、そしてヒト	2 ●	
	高次脳機能と先端ニューロサイエンス	2 ●	
	ライフサイクルとメンタルヘルス	●	
医科学領域応用科目	臨床医学の最前線	2 ●	}
	看護学領域の応用科目	●	
	理学療法学・作業療法学領域の応用科目	●	
	放射線技術科学領域の応用科目	●	
他領域の応用科目	特別研究	8 ●	}
	特別研究	8 ●	
	特別研究	8 ●	
合 計			30 単位以上

【博士前期課程】

講義等の内容

講義等の内容

【基礎科目】

(★印は科目責任者)

授業科目名	講義等の内容
研究計画法と研究倫理	<p>医療系とその関連研究分野を主な対象として、その研究活動の土台となる研究計画法と倫理について概説する。研究の方向性、内容に適した計画案をたてるための基本理論の組み立て方を、実験系、観察系、介入系、質的調査のそれぞれについて、具体的な事例をもとに解説する。</p> <p>キーワード：研究計画法、研究倫理、質的調査の研究計画法、事例研究を進めるための研究計画法、観察・尺度研究の計画方法、看護領域における研究計画、診療放射線領域における研究計画</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★内田敦子教授、馬場健教授、倉本尚美准教授、山本哲助教、宮田一弘助教、渡辺忍准教授、郡倫一助教)</p>
健康統計学	<p>健康医療統計学の基礎から応用に至るまで幅広く講義し、論文の批判的読解力と特別研究へ応用・発展させる実践力の基礎を提供する。</p> <p>学部で学習した基礎的な統計学的手法をさらに発展させ、分散分析のほか、重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析、因子分析などの多変量解析、必要に応じて一般化線型混合モデル、傾向スコア、構造方程式モデリングなどの論文作成に用いる可能性の高いデータ解析手法を取り上げる。最終的に分析結果を論文に記載する方法を、APA 論文執筆マニュアルをもとに解説する。</p> <p>2. 専門領域における統計解析</p> <p>はじめに、医療関連分野の統計解析に関する概要を学んだ後、運動動作におけるデータ取得方法や臨床応用、臨床における患者介入と評価、福祉工学機器を活用したリハビリテーションの効果検証、生物学の基礎実験に求められるデータ分析等の研究課題を通して、異なる専門領域におけるデータ分析の特徴や方法を学ぶ。</p> <p>キーワード：健康医療統計学、分散分析、重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析、因子分析、一般化線型混合モデル、傾向スコア、構造方程式モデリング、APA 論文執筆マニュアル</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★井田博史教授、久保田茂希教授、倉本尚美准教授、宮田一弘助教、内田敦子教授、井出政行教授</p>
人間と医療、そして社会	<p>ヒトの健康と命を守り育てるための医療、それを取り巻く社会との関係について、基礎科学から臨床、更に生命倫理など多角的観点から概説する。</p> <p>キーワード：生命倫理と社会論、生命倫理、医療安全 ヒューマンエラー、医療の課題と展望</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★才津芳昭教授、中山智博准教授、田口典子教授、松元秀次教授、海山裕之講師</p>
環境医科学	<p>環境が人間に与える影響について、医科学的に概説する。</p> <p>キーワード：公衆衛生、感染予防・対応、リハビリテーション医療における環境因子、環境因子)</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★桜井直美教授、河野了教授、松元秀次教授、相良順一准教授)</p>

授業科目名	講義等の内容
医療教育学 特論	<p>卒後 3 年を目途に、理学療法士・作業療法士が医療専門職として修得しているべき知識・技能を考え、そこに至る過程を考えることにより、学内教育および臨床実習教育が備えるべき教育内容に関する理解を深める。同時に、診療参加型臨床実習の理念と方法を学び、学内教育と新任教育を如何に連続させるかについて考察する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>キーワード：医療専門職教育、学内教育、臨床実習教育、診療参加型臨床実習、新任教育</p> <p>★堀田和司教授、松田智行准教授、白石英樹教授、浅川育世教授、藤田好彦准教授、篠崎真枝准教授、若山修一准教授、唯根弘助教</p>
医療と教育 論	<p>医療従事者の養成に必要な教育学に関する諸理論や概念を学修するとともに、現代の若者の心理的特徴を理解し、教育心理学に基づいた適切な指導の方法について学ぶ。さらに、医療専門職の教育に特化した専門教育の方法を実践する能力を身に着ける。</p> <p>キーワード：学習者の心理、教育心理学、指導理論、ハラスメント予防、教育の基礎理論、初等中等教育、高等教育、生涯学習、医療専門職教育、医療プロフェッショナルリズム、医学教育の変遷、PBL、TBL、反転授業、教育評価、卒後教育、チーム医療</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★佐藤純教授、立石慎治非常勤講師、前野貴美非常勤講師</p>

【看護学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
看護理論	<p>看護現象の理解を深めるために、看護実践の基盤となる看護理論を理解する。理論と実践とのつながりについて、自らの看護実践を通して考究する。</p> <p>(★富田美加教授) 看護実践の基盤としての看護理論の意義について考究する。</p> <p>(高橋照子非常勤講師) 理論と実践とのつながりについて、自らの看護実践を通して考察した結果を相互に討議することによって探究する。</p>
看護と研究	<p>専門知識や技術の向上及び開発に活かすことを目的に、分野を超えた知識を学び、看護の実践に密着した研究活動を行うに足る能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、富田美加教授、糸嶺一郎准教授、本村美和准教授) 研究を進める過程を概括し、看護学における研究の意義、研究の種類及び研究計画、学術情報の探索及び活用について教授する。看護研究の中で多用されている量的及び質的研究方法について教授する。</p>
看護倫理	<p>看護活動場面における倫理的諸課題に対し、解決に向けて調整を行うために用いる諸理論及び具体的アプローチについて考究する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★富田美加教授) 看護学の実践者、教育者、研究者に必要な研究倫理の基本について教授する。</p> <p>(太田尚子非常勤講師) 看護実践における倫理的課題及びその分析の方向性について教授する。</p> <p>(鶴若麻理非常勤講師) 生命倫理を通して人間の尊厳、ヒューマンケアについて教授する。また、看護実践における倫理的態度や看護師の倫理調整力、アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning ; ACP) について教授する。</p> <p>(中島弘非常勤講師) 医療倫理全体の視点から、保健医療職のもつべき倫理規定及び医療職者間の関係性からみた看護職の役割について教授する。</p>
家族看護学	<p>家族の新しい考え方や研究アプローチについて理解し、家族への看護援助、看護介入方法を学修する。オムニバス方式によって、社会学的視点の上に家族看護学についての広い能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、才津芳昭教授) 家族の定義や類型、機能など、家族社会学の基礎を学習し、その上で少子化や高齢化、家庭内暴力、生殖医療など現代家族が抱える諸問題を考察する。あわせて、家族の実態に関する諸言説(「家族は多様化・複雑化した?」「核家族化が進んだ?」等)の真偽を検証する。家族を理解するための諸理論に基づき、家族アセスメントを行い、家族支援のありかたについて考究する。</p>

授業科目名	講義等の内容
教育実践特論	<p>(★佐藤純教授) 健康教育や看護教育など広義の教育に関わる実践的知識および技能、ならびに教育に必要なコミュニケーション技能について、教育心理学的な観点から教授する。知的な理解だけでなく、自らの体験を通して学修することを目標とする。</p>
臨床薬理学	<p>薬物力学・薬物動態学などの基礎薬理学の知識を押さえて、臨床現場で多く遭遇する疾患および救急時の薬物療法について学習する。患者の生物学的背景、生活文化、疾病状況をアセスメントし、薬物の効用と副作用のバランスを考慮しながら、患者の QOL 向上に寄与する薬物療法を導き出し、薬指導・管理を検討し、患者の薬剤アドヒアランスの向上を目指す。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授、河野了教授、高村祐子教授、田口典子教授、藤岡寛教授、齋藤和美講師、今村知世非常勤講師、内田直樹非常勤講師、古川恵一非常勤講師、谷中昭典非常勤講師、隈本邦彦非常勤講師、八重ゆかり非常勤講師、田口真穂非常勤講師、諸星北人非常勤講師、水上拓也非常勤講師)</p>
病態生理学	<p>高度看護実践者に必要とされる、主な症状や徴候、所見の背景にある病態生理を網羅的に教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、河野了教授、河野豊教授、六崎裕高教授、中村博文教授、高村祐子教授、鯨岡裕司准教授、古川恵一非常勤講師、谷中昭典非常勤講師、五十嵐忠彦非常勤講師、市村和大非常勤講師、齋藤和美講師、竹内亮子講師)</p>
フィジカルアセスメント	<p>さまざまな健康問題をもつ対象の身体・精神状況を診査し、臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。成人期の対象へのアセスメントに必要な知識・技術を基盤として学修した後、各発達段階の特徴に基づくアセスメントの技法を修得する。また、各専門領域における専門看護師としてのフィジカルアセスメントの活用について考察する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★高村祐子教授、中村博文教授、藤岡寛教授、吉良淳子教授、河野豊教授、河野了教授、六崎裕高教授、松元秀次教授、川野道宏非常勤講師、本村美和准教授)</p>
基礎看護学特論	<p>看護学の構築及び看護の専門職化の歴史をふまえ、看護学の基盤について探究する。また、看護学の基本的概念や科学的根拠に基づく看護実践、看護研究の成果及び方向性についても、広く理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★富田美加教授) 看護学の共通基盤についての理解を深め、看護学領域の研究動向等について議論する。</p> <p>(高橋由紀准教授) 看護学における看護活動を生活支援という観点からとらえて学修を深める。</p>

授業科目名	講義等の内容
看護管理学 特論	<p>保健・医療・福祉を取り巻く環境について概観し、看護サービスおよび看護管理のあり方を教授する。また看護管理者のコンピテンシーについて深く検討する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★吉良淳子教授、島田智織教授) 看護管理の基本的な概念や理論の理解を深め、看護管理の課題を探究する。特に看護サービスマネジメントの視点から、質の保証と評価および改善のあり方について追及していく。</p> <p>(柳橋礼子非常勤講師) 組織力の強化を目指すスタッフのキャリア開発と継続教育のあり方について教授する。</p> <p>(金井 Pak 雅子非常勤講師) 看護管理に関する内外の研究および活動の国際比較からわが国における特徴と課題を考察する。</p>
基礎看護学 演習 I	<p>文献抄読や看護技術を科学的に探究する演習等を通して、看護学における基盤的研究について考究する。</p> <p>(★富田美加教授、高橋由紀准教授)</p>
基礎看護学 演習 II	<p>研究課題に適した研究方法の選択や研究の進め方について、文献抄読等の演習を通して実際的に理解する。各自の研究課題を明確化し、研究計画書を作成する。</p> <p>(★富田美加教授、高橋由紀准教授)</p>
看護管理学 演習 I	<p>(★吉良淳子教授) 複雑なシステム構造をもつ医療チームの組織構造と機能、および組織と個人の目標達成に向けた看護管理者の役割を探究し、看護管理プロセスをふまえて課題解決の方法を検討する。</p> <p>授業は文献抄読とディスカッションを中心に行う。研究的視点で看護管理の実際を理解し、個別の研究課題を明確にする。</p>
看護管理学 演習 II	<p>(★吉良淳子教授) 国内外の文献抄読等を通して、研究課題に適した研究方法の選択、研究の進め方について実際的に理解する。演習を通して、各自の研究方法を具体化し、研究計画書を作成する。</p>
地域看護学 特論	<p>地域看護学の基本的概念や諸理論について理解を深め、地域で展開する看護活動の特性及び特論を学ぶことから自らの研究課題を深めていく。</p> <p>歴史的背景をふまえ、地域看護学における最新の研究の動向について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山口忍教授、綾部明江准教授)</p>
公衆衛生学 特論	<p>地域看護学において重要である疫学を中心に、環境衛生、衛生行政等の公衆衛生学的立場から、地域保健医療活動を教授する。具体的には、学部における「衛生・公衆衛生学」を基盤に、地域住民の疾病予防、健康増進、高齢者の健康保持、共通科目「環境医科学」に基づく感染予防対策などの側面から、地域へ貢献可能な方法論を教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★桜井直美教授、小池和子非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
地域看護学 方法論	<p>地域看護活動の特性について、具体的活動事例を通して方法論の検討をするとともに、地域看護管理および地域看護教育の方法論について教授する。</p> <p>地域看護活動の対象、活動の場、活動方法の特性について、事例を通して学び、地域看護の専門性について分析する。また、今後の地域看護学の看護管理及び基礎教育と継続教育のあり方について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山口忍教授、綾部明江准教授、松田正巳非常勤講師、反町吉秀非常勤講師)</p>
地域看護学 演習	<p>地域看護活動の実際を通し、健康問題や生活問題を組織的に解決していくことや、住民の自己決定や地域の力を引き出すことを目指した活動について学び、今後の地域看護活動の方向性を考える。地域の健康問題や課題について組織的に解決していくプロセスを実際の活動を通して学び、地域看護活動を効果的及び効率的に展開していく能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山口忍教授、桜井直美教授、綾部明江准教授、田中友基非常勤講師)</p>
ウィメンズ ヘルス特論	<p>女性のライフステージ全般にわたり、ウィメンズ・ヘルスの視点から、歴史的背景、基本的概念、諸理論を通して対象を理解し、各ステージの健康問題を判断する知識および理論を教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山波真理教授)</p> <p>①日本および諸外国における女性保健の歴史的背景を探る。</p> <p>②ジェンダーおよびセクシュアリティと健康を探求する。</p> <p>(金澤悠喜非常勤講師) ウィメンズ・ヘルスの現状および新たな問題を発見する方法論として EBM を教授する。</p>
ウィメンズ ヘルス看護 特論	<p>周産期にある健康な母子とその家族へのプライマリケアについて、母性看護専門家として多様な視点について展望する。オムニバス方式を用いることにより周産期全般にわたる看護のより専門的な理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>周産期、妊産婦の健康アセスメントとケアに関する理論的枠組みを理解するとともに、地域母子保健の現状と問題点について教授する。</p> <p>(★山波真理教授、山海千保子准教授) 周産期保健・医療システムの形成と、周産期保健・医療における倫理的課題、新生児のアセスメントとケアについて教授する。</p> <p>(菊地栄非常勤講師) ウィメンズヘルス看護に関連する社会デザイン学からの知見から教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
ウィメンズヘルス看護学方法論	<p>周産期保健・医療における場、女性からのニーズの引き出し方、ケア提供者の持つ目標による相違を比較し、女性自身の求めるケアへの接近方法について、教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山波真理教授、山海千保子准教授) ウィメンズヘルス看護活動評価に関する研究方法について教授する。</p> <p>(島田智織教授、長岡由紀子准教授) ウィメンズヘルス看護活動／研究の課題の捉え方と質的方法、量的方法について教授する。</p>
ウィメンズヘルス看護学演習	<p>女性のライフサイクルにおける健康上の問題あるいは周産期における母子及び家族の健康に関するニーズや問題に対して新しい看護・助産の分析、研究方法を学ぶ。評価は、発表態度、資料の正確さ、質、およびレポートによって行う。</p> <p>(★山波真理教授、山海千保子准教授) 女性、母子および家族に関するケアについて、メディアリテラシーの手法等を用いて、探索する方法を教授する。女性、母子保健の政策づくりの情報収集方法を教授する。</p> <p>(毛利多恵子非常勤講師) 周産期保健・医療における場、女性からのニーズの引き出し方、ケア提供者の持つ目標による相違を比較し、女性自身の求めるケアへの接近方法について、教授する。</p>
小児看護学特論	<p>子どもと家族を成長発達の視点からとらえ、子どもの認知、情緒・社会性を把握し、セルフケア、自尊心やボディイメージを含む自己概念、コーピング能力について学習する。更に、子どもと家族に対する理解やケアへの活用方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授、龜山千里非常勤講師)</p>
小児サポートシステム論	<p>国際的視点からの小児保健看護の歴史や、小児に関わる医療・保健政策、福祉政策、教育政策並びにその問題点と解決方法について学ぶ。また、日本における小児保健看護の歴史、および、小児および家族が利用できる社会資源の有効な活用方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授)</p>
小児看護マネジメント論	<p>リハビリテーションが必要な子どもと家族を対象に、彼らが直面する健康問題や社会的問題を解決するために必要な看護管理能力や教育的役割遂行能力を高めるとともに、小児リハビリテーション看護、小児リエゾン看護、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整について学ぶ。</p> <p>また、病院や施設にいる障害のある子どもと家族を対象とした看護組織の仕組みや機能、教育などの看護マネジメントのあり方について、チームアプローチの視点から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、龜山千里非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
小児健康評価演習	<p>あらゆる健康レベルの子どもとその家族を包括的にアセスメントするために必要な方略や技法を学ぶ。オムニバス方式をとることによって、より高度で専門的なアセスメント技法を提供し、フィールド演習を通して、子どもの各側面の成長発達と家族の包括的評価能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(中山智博准教授)</p> <p>子どもの身体的アセスメントに必要な理論と技法を学ぶ。</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授)</p> <p>子どもの発達を評価するために必要な理論及び技法を学ぶ。</p> <p>子どもと家族の精神的健康や家族機能を評価する方略や技法を学ぶ。</p>
小児看護援助演習	<p>様々な健康レベルにある子どもとその家族に対して、適切な倫理的判断および臨床判断に基づく高度な看護実践の方法を学ぶ。特に、子どもの権利擁護や意思決定支援、プレパレーションの実施方法に注目する。また、援助方法を検討するにあたり、ヘルスプロモーション・ストレス・コーピング、レジリエンスの概念を活用する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授)</p>
小児看護応用演習	<p>小児リハビリテーションを必要とし、通院又は入院中の発達段階の異なる子どもに対して、身体的および心理社会的な視点で、かつ子ども本人および家族全体の範囲を包括的にアセスメントし、改善策を具体的に提示できる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授)</p>
小児科学	<p>小児期における代表的な疾患に関して、その病態生理・診断・治療・症状マネジメントのプロセスを学ぶ。また、それら一連のプロセスにおける看護援助の視点を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中山智博准教授、中山純子准教授、大黒春夏講師、藤岡寛教授)</p>
成人看護学特論	<p>疾患・障害をもつ成人とその家族及び健康づくりや疾病予防への看護に関連する理論と最近の知見を深め、実践のための知識の深化を図るとともに、研究のための基礎を教授する。</p> <p>理論に基づき、援助対象の看護問題のアセスメント、援助方法のあり方、さらにはその開発について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★吉良淳子教授) 成人期の看護の対象の特性について教授する。慢性期・終末期、リハ期における対象の特性と看護の特徴、主要概念とモデル・理論の活用について教授する。</p> <p>(大江佳織准教授) ヘルスプロモーション活動における健康行動理論等や急性期における危機理論等を活用した看護について教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
成人看護学 方法論	<p>成人期にある人々やその家族への看護実践のあり方を捉え直し、新たな視点や方法を創造していくことを課題とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究していく方法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★本村美和准教授、大江佳織准教授、吉良淳子教授)</p> <p>国内外の文献を通して成人看護学の課題について教授する。</p>
成人看護学 演習Ⅰ	<p>慢性期看護の特徴とその研究動向を踏まえて、慢性経過をたどる健康障害をもつ成人患者とその家族に対する看護の課題について教授する。また、慢性期看護に適応できる看護理論や中範囲理論を用いて、臨床で経験した看護実践事例の再評価や、研究テーマに関連する文献検討を行う。</p> <p>(★大江佳織准教授、吉良淳子教授)</p>
成人看護学 演習Ⅱ	<p>成人期にある患者の理解や援助方法について事例や文献を用いて看護の課題を教授する。具体的には、文献のクリティークを通して、看護研究を進めるために必要な知識とクリティカルな思考を身につけられるよう支援する。その過程で、研究を進める中で生じる疑問や課題を解決するための能力を養えるよう、課題を提示する。</p> <p>(★本村美和准教授、吉良淳子教授)</p>
老年看護学 特論	<p>高齢者看護に関わる諸理論や概念を学修し、高齢者の心理・社会性や健康上の課題と、高齢者の潜在能力を引き出し QOL を高めるために必要な看護について理解を深めるとともに、適切な倫理的意思決定に基づいて専門性の高い看護実践ができる能力を養う。</p> <p>(★高村祐子教授、渡辺忍准教授、田中久美非常勤講師)</p>
高齢者健康 評価論	<p>高齢者と家族の生活上の健康ニーズを把握するために、総合機能評価に用いられる評価指標とその使用方法について理解する。また、高齢者の老化過程をふまえ、神経系等の機能評価の方法と実際について学修する。さらに、高齢者の健康行動および心理に影響を与える環境とその要因の評価について学修する。最後に事例を用い、家族看護に関する諸理論を活用し、評価する。</p> <p>(★高村祐子教授、河野豊教授、松田智行准教授)</p>
高齢者病態 論	<p>高齢者に起こりやすい疾患や判別を要する症状の病態・検査・治療について学修し、適切な判断に基づく看護を実践するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★高村祐子教授、河野豊教授、河野了教授、鯨岡裕司准教授、岸本浩講師、石本立講師、石井幸雄非常勤講師、森和也非常勤講師)</p>
高齢者生活 援助論	<p>高齢者に起こりやすい健康問題や生活機能障害について、疾患の影響や診断・治療をふまえた身体・心理・社会機能のアセスメントに基づき、高齢者の潜在能力を引き出し、QOL の向上を意図した看護援助を実践できる能力を養う。また、高齢者および家族に対して、高齢者の健康問題に潜在する倫理的課題をふまえた専門的かつ高度な看護を実践できる能力を養う。</p> <p>(★高村祐子教授、本村美和准教授、石井智恵理非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
高齢者サポートシステム論	<p>高齢者の保健医療福祉制度における政策の現状および展望をグローバルな視点から理解し、看護の立場から、制度・施策の改善に向けた活動計画の案出能力を修得する。また、高齢者とその家族を包括的視点で捉え、最適なサービス調整や関係職種や住民との連携・協働を促進し、倫理的意思決定による継続看護を展開するための能力を養う。ソーシャルサポートの知識を用い、フィールドワークにより、高齢者に必要とされるサポートシステムの組織化と活用を促進するための計画を提案できる。</p> <p>(★高村祐子教授、渡辺忍准教授、佐藤嘉夫教授、田中和子非常勤講師)</p>
老年看護学演習Ⅰ	<p>入院治療中の急性期から終末期の複雑な健康問題を有する高齢者（認知症高齢者を含む）に対して、質の高いアセスメントと看護について再考し、高齢者に安心、安全で円滑な治療と入院生活を提供するための最新の看護実践を探求する。</p> <p>(★高村祐子教授、石井智恵理非常勤講師)</p>
老年看護学演習Ⅱ	<p>在宅で療養生活をおくる複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族が、質の高い生活を送ることができるよう、適切な看護判断と看護実践を展開する能力を修得する。</p> <p>(★高村祐子教授、渡辺忍准教授、田中和子非常勤講師)</p>
精神看護学特論	<p>精神看護学における実践の基盤となる知識を、精神障がい者への施策・人権擁護に関する歴史の変遷も含めて振り返り、基礎的理論についての理解を深める。さらに、最近の動向と知見を得ることで、今後の精神看護学のあり方について各々が考察できるよう科学的思考を身につける。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神看護学における基本となる考え方を、最近のトピックスとともに考察し、精神科医療の歴史的背景を含めて教授する。</p> <p>(※嶺一郎准教授) 看護職者の精神的危機に焦点を当て、そのメカニズムや対処方法などを教授する。</p>
精神看護学方法論	<p>人々の精神状態や発達課題の的確な評価方法とその活用について理解を深める。さらに精神障がいをもつ対象の特徴を理解し、アセスメント方法を理解するとともに、認知行動療法、セルフヘルプを含めたグループアプローチなど具体的援助方法とその活用について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神状態を評価するときの指標を、セルフケア理論に基づいて、人間行動学的にアセスメントする方法を教授する。</p> <p>(※嶺一郎准教授) バーンアウトやリアリティショックなどの概念や実際の事例等を用いながら、それらのコーピングの実践能力を教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
精神看護学 演習	<p>精神障がいをもつ対象の理解と援助方法について、実際の事例や国内外の文献を通して分析し、精神看護学における現状と課題を明らかにする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 国内外の文献を通して、精神保健医療の課題と今後の展望について教授する。また、研究手法(量的・質的)の概略について教授する。</p> <p>(※嶺一郎准教授) 量的研究の方法論としての、統計学的手法を説明し、実際の活用方法について教授する。</p>
地域精神保健特論	<p>現在、わが国の精神保健は、精神障害はもとより心の健康に至るまで広い視点を持つようになった。また地域精神保健とそれぞれの地域の歴史と文化により発展していくものであり、その中での看護職は大きな役割を求められている。この講義では、地域精神看護の基礎的な知識を広く教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★井出政行教授) グローバルな視点での地域精神保健の現状や日本での地域精神保健の展開における実践的な知識を教授する。</p> <p>(中村博文教授) 地域精神保健活動でのグローバリゼーション、ローカリゼーションの概念を考え、精神保健看護活動の課題と展望を教授する。</p>
精神評価方法論	<p>精神機能ならびに人格水準の評価に必要な精神力動理論、人間発達論、レジリエンスモデルなどの基盤となる理論を習得する。さらに精神医学モデルに則り、精神科診断学や精神科臨床検査学の知識を学習し、さまざまな状態にある人間の精神や問題行動、さらに家族の病理について諸理論を用いて総合的に評価ができる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神健康状態の査定・評価と理論体系に基づいたさまざまな主要概念を教授する。</p> <p>(井手政行教授) さまざまな発達段階における精神疾患の検査と診断を教授する。</p>
精神治療方法論 I	<p>精神看護専門看護師が行う治療支援の方法としてその基本理論とその技法について修得する。その具体的内容として、1) 支持的療法、2) 認知行動療法、3) 集団療法、4) 危機介入、5) 精神科薬物療法の基本などを深く学び、精神治療学体系を学修する。そして、精神障がい者の症状コントロールやマネジメントに関する研究論文を検索し、その内容を基にディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神科における治療の全体と看護の役割について教授する。</p> <p>(井手政行教授) 精神薬理の理論とその作用機序について教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
精神治療方法論Ⅱ	<p>精神看護専門看護師が行う治療支援の方法としてその基本理論とその技法について修得する。その具体的内容として、1) 心理教育、2) リラクゼーション、3) アンガーマネジメント、4) アサーション、5) マインドフルネスなどを深く学び、精神治療学体系を学修する。そして、精神障がい者の症状コントロールやマネジメントに関する研究論文を検索し、その内容を基にディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神科領域で行われる治療支援の基盤となる理論を理解し、その特徴ならびに適用と技法について教授する。</p> <p>(糸嶺一郎准教授) ストレスの概念、コーピング理論の概要、その介入手法について教授する。</p> <p>(井手政行教授) 動機づけ面接、弁証法的行動療法などについて教授する。</p>
救急・急性期精神看護学特論	<p>救急・急性期における精神看護専門看護に求められる、卓越した看護を行うための実践能力を育成に向け、必要な知識と技能を修得する。精神科における救急・急性期に関する人間関係論、セルフケア理論、医学モデルなどを活用し、講義および事例展開、最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して援助の理論的枠組みと臨床への適応方法を実践的に学ぶ。特に急性期精神疾患である、統合失調症群、抑うつ障害群、不安障害群、心的外傷およびストレス障害群等の患者の特徴を理解し、精神機能の評価及び生活状態のアセスメント方法について討議を通して深く学習する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神科救急・急性期における具体的看護方法について論じ、回復過程にあわせた看護ケアを教授する。</p> <p>(糸嶺一郎准教授) 精神科救急・急性期看護現場が抱える課題と特有の倫理的問題について教授する。</p>
小児看護学実習Ⅰ(小児の診断・治療実習)	<p>実際の患児(10例以上)を通じて、高度実践看護師に必要とされる、小児の代表的な疾患に関する症状の査定・診断・治療のプロセスを理解する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授、市川睦助教)</p>
小児看護学実習Ⅱ(専門看護師実習前半)	<p>高度実践看護師の実際の活動を見学し、そのコンサルテーション・教育・調整・倫理調整等の機能を理解する。そして、看護の難しい患児や家族に対して直接的なケア(高度実践)を行う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授、市川睦助教)</p>

授業科目名	講義等の内容
小児看護学 実習Ⅲ(専門 看護師実習 後半)	<p>看護の難しい患児や家族に対して、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整等含む、ケアとケアを統合した高度な看護実践を行なう。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授、市川睦助教)</p>
老年看護学 実習Ⅰ	<p>入院治療中の急性期から終末期の複雑な健康問題を有する高齢者(認知症高齢者含む)に対して、研究的視点を持ちながら最新の知識と技術を用いて、質の高い看護が提供できる実践能力を修得する。また、看護職員への相談・教育能力や、高齢者を取り巻く医療チームとの調整能力を修得する。</p> <p>(★渡辺忍准教授、高村祐子教授)</p>
老年看護学 実習Ⅱ	<p>在宅において、高齢者に生じやすい症状や治療に予測的に対応できるよう、病態生理、薬物療法をふまえたフィジカルアセスメントによりリスクの程度を判断し、ケアとケアを統合した看護実践を導くための能力を修得する。</p> <p>(★渡辺忍准教授、高村祐子教授)</p>
精神看護学 実習Ⅰ (役割機能実 習、コンサルテ ーション・コー ディネーショ ン実習)	<p>専門看護師を役割モデルとしながら、院内や病棟看護師の教育及び臨床研究指導、コンサルテーション、調整、患者及び家族への倫理調整に関わる活動等を学び、精神看護専門看護師としての役割と機能を果たす能力を習得することを目的とする。高度実践看護師である精神看護専門看護師に同行し、直接看護ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究活動の場に同行し、観察を行いながら、専門看護師の役割と機能、さらに専門看護師としての態度について理解を深める。</p> <p>(★中村博文教授、糸嶺一郎准教授)</p>
精神看護学 実習Ⅱ (診断・治療 実習)	<p>精神科病院に入院あるいは通院している患者に対し、精神科医師の臨床判断や精神医学診断に関する一連の考え方や手技を精神科医師の指導の元で学び、精神的問題をもつ対象者の診たてに必要な知識と技能、態度を培うことを目的とする。また、専門職のスーパービジョンを受けながら、患者の症状や生活に適した薬物療法や各種治療技法の適用の理解を深め、卓越した働きかけをするための能力を養うことを修得する。</p> <p>(★中村博文教授、糸嶺一郎准教授)</p>
精神看護学 実習Ⅲ (直接ケア 実習*)	<p>医療施設等における直接ケア実習</p> <p>精神科医療施設における精神科診断・治療と直接ケアを中心に、必要に応じて倫理調整、教育およびコーディネーションを含めて、高度看護実践に必要な能力について実践的に修得する。</p> <p>サブスペシャリティ領域における直接ケア実習</p> <p>精神疾患患者や家族に救急・急性期精神看護を必要とする患者の QOL の向上を目指したケアとケアを融合した高度な精神看護実践を行う。看護の専任教員と CNS 相当レベルの臨床指導者のスーパービジョンを得ながら実施する。救急・急性期看護を必要とする患者について包括的アセスメントに基づいて直接ケアを展開し、間接ケアとしてコンサルテーション、コーディネーションを展開する。</p> <p>(★中村博文教授、糸嶺一郎准教授)</p>

授業科目名	講義等の内容
課題研究	<p>高度実践看護に関する特定の課題に関して、研究計画を立案し、その計画に従い研究を実施し、研究成果を課題論文として作成する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、高村祐子教授、中村博文教授)</p>

【理学療法・作業療法領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
運動障害リハビリテーション学特論	<p>運動障害に伴う症状とその原因、評価法、治療法及び関連研究の方法を理学療法・作業療法との関連で探求する。人体の機能分野と整形外科学の分野の専門家で構成するオムニバス方式とする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(角友起准教授) 運動障害についてその基礎的メカニズムを学修する。</p> <p>(★六崎裕高教授) 脊椎脊髄疾患、スポーツ障害、骨関節障害、末梢神経等の運動障害に対する病態、評価、治療、リハビリテーションについて指導の原理、方法を学修する。</p>
運動障害リハビリテーション学特論演習	<p>運動障害の機序及び障害の評価と治療・指導に関して演習を通して理解を深める。人体の機能学分野と整形外科学の分野の専門家で構成するオムニバス方式とする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(角友起准教授) 運動発現に関与する神経系の機能についての基礎的知識を習得し、演習を通して理解を深める。</p> <p>(★六崎裕高教授) 付属病院での症例を用いて運動器障害の評価と治療・リハビリテーションの方法について学ぶ。特に症例を深く分析し、病態、画像所見、治療計画を立てることを学ぶ。</p>
神経障害リハビリテーション学特論	<p>中枢神経疾患、末梢神経疾患及び筋疾患のリハビリテーションに関係する疾患の病態と障害に関して、病態や障害の成立や、障害の運動解析、さらに機能回復に関わるメカニズムを習得する。</p> <p>(★河野豊教授) 神経変性疾患、筋疾患の病態について、疾患の発症機構や障害の特性について、神経リハビリテーションに関連した視点から理解を深めるとともに、文献などを通して関連領域の臨床神経科学の研究を学ぶ。</p> <p>また、脳血管障害や外傷性脳損傷の病態について、疾患の発症機構や、障害成立のメカニズムについて、神経リハビリテーションに関連した視点から理解を深めるとともに、文献などを通して関連領域の臨床神経科学の研究を学ぶ。</p>
神経障害リハビリテーション学特論演習	<p>神経障害リハビリテーション学特論に基づき、応用的、実践的な思考と技術を習得するため、臨床的な立場から、神経障害のメカニズムに関してアプローチする。</p> <p>(★河野豊教授) 障害のメカニズムや解析方法について、症例検討や、医用画像、神経生理学的検査から得られる情報の解析を行い、リハビリテーションとの関連性について演習形式で学修する。</p> <p>また、障害の評価やその代償機構について、実際の評価法や、その解析方法について演習形式で学修する。</p>

授業科目名	講義等の内容
地域リハビリテーション学特論	<p>地域リハビリテーションに関連する医学的研究の計画、デザイン、実施、解析の方法論について、教科書を基に議論し、基本的な調査研究方法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★松田智行准教授) 研究の基本的要素 (リサーチクエスション、対象者の選択、測定方法の計画、サンプルサイズ)、研究デザイン (横断研究、コホート研究、症例対照研究、観察的研究における偏りと交絡、介入研究、ランダム化比較研究、既存データの利用) について学修する。</p> <p>(上岡裕美子教授) 研究の実施 (倫理の問題、質問紙調査実施、データ管理) について学修する。</p>
地域リハビリテーション学特論演習	<p>地域リハビリテーションにおける実践事例および研究論文より、地域リハビリテーション支援および研究方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★上岡裕美子教授) 施設 (入所サービス、通所サービス) および訪問リハビリテーションにおける介入研究の方法と成果について研究論文より検討する。</p> <p>(堀田和司教授) 地域リハビリテーションに関する公的データ検索と解釈について検討する。</p> <p>(滝澤恵美教授) 理学療法士による学校保健における運動器健診の取組みと子どもの発達について学修する。</p> <p>(松元秀次教授) 医療政策 (病院経営等) およびリハビリテーション研究の進め方について学修する。</p> <p>(倉本尚美准教授) 摂食・嚥下障害の評価における嚥下音及び姿勢角度の計測とその分析について学修する。</p>
理学療法学理論特論	<p>理学療法学の知識基盤・理論・技術の発展について歴史的及び現状の分析や文献的考察を通して、理学療法学の理論的枠組みを学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★橘香織准教授) 理学療法を支える運動学・運動療法学の諸理論を学修する。</p> <p>(篠崎真枝准教授) 運動学習・運動制御の諸理論を学修する。</p>
理学療法学理論特論演習	<p>医学のみならず、多領域 (体育学、心理学、社会学、工学等) における対象規定や方法論がどのように理学療法に援用できるのかを、ヒトの身体運動を対象とする各種の方法論についての演習を通して学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★橘香織准教授) 神経科学的観点から人間の行動や病態に関してディスカッションする。</p> <p>(篠崎真枝准教授) 行動レベルで見た運動学習・運動制御理論の観点からディスカッションする。</p>

授業科目名	講義等の内容
運動・動作解析学特論	<p>運動・動作がどのような位置づけにあるのかを障害モデルとの関係により学習する。また学生が臨床で使用する運動・動作に関する評価指標と、運動介入の効果について文献等を通して学習する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★浅川育世教授) 普段臨床で使用している様々な疾患を診るために必要な評価指標(主に運動を見るもの)について、その作成の経緯を振り返るとともに、課題についてディスカッションする。</p> <p>(青山敏之准教授) 運動器障害を中心に、評価指標(主に動作を見るもの)が介入効果を示すものとしてどのように使用されるのか、実際の臨床研究等を用いてディスカッションする。</p>
運動・動作解析学特論演習	<p>(★水上昌文教授、柴田聡助教) ヒトの関節運動、姿勢と平衡の維持及び運動・動作の遂行に関する解析法を学修する。特に運動機能が臨床的な問題に及ぼす影響、異常運動や代謝運動の原因となる運動変数の探求について学修する。</p> <p>具体的には、身体の運動機能を解剖学・生理学・力学などの諸視点から捉え、臨床的な問題がいかに運動機能に影響を及ぼすかを学ぶとともに、異常運動や代償運動を症候として捉え、それらを起こした原因を追求するためにはどのような運動変数を探せばよいのかを学修する。</p>
運動機能障害理学療法学特論	<p>運動機能障害の評価法、治療的訓練法を探求し、運動機能障害に対するリハビリテーションと理学療法の考え方、方法及び予防法について最新の諸説と論点を学修する。また、学生の研究テーマにも関連させた講義で進行する。呼吸理学療法学分野と人体の機能解剖学分野との専門家で構成するオムニバス方式とする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★富田和秀教授、滝澤恵美教授、瀬高裕佳子助教、河村健太助教)</p> <p>呼吸機能障害に対する治療法の国際動向を把握し、その中で理学療法の役割、最新の評価と治療訓練について文献を通して学修する。</p> <p>理学療法に関係する古典的な運動器治療の原理・原則について、原著論文を再読し、現在の扱いに関する問題点を学修する。</p>
運動機能障害理学療法学特論演習	<p>運動機能障害に対する理学療法の評価と治療・効果判定の方法について、ケーススタディあるいは文献的検討を通して学修する。また、学生の研究テーマにも関連させた講義で進行する。呼吸理学療法学分野と人体の機能解剖学分野との専門家で構成するオムニバス方式とする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(富田和秀教授) 呼吸機能障害に対する理学療法介入について、実践例を通して、その評価法ならびに介入方法の選択、介入効果を学修する。</p> <p>(★滝澤恵美教授) 運動機能障害の臨床研究等を用いて、ディスカッション形式で授業を展開する。</p>

授業科目名	講義等の内容
作業科学特論	<p>人は、様々な作業（その人にとって何らかの意味や目的のある活動すること）により一日を過ごしている。人は自分の“していること”（作業遂行）によって自分自身をつくり、つくられていく。人を「作業的存在」としてとらえ、人と作業と健康に関する知識を系統的に探求するため、本授業では、人の作業の多角的な側面と、作業科学および作業療法理論における作業について学修する。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★齋藤さわ子教授）作業科学の視点から、作業の意味・形態・機能および作業の空間・時間的側面と人の健康との結びつきについて学修する。作業療法の理論において作業がどのように位置づけられ、扱われているかについて学修する。</p> <p>（伊藤文香講師）作業の研究から得た知見とそれの基づく、臨床応用と研究の発展の可能性について学修する。</p> <p>（港美雪非常勤講師）作業の研究から得た知識の臨床へ応用について学修する。</p>
作業科学特論演習	<p>作業学特論で習得した知識を基本として、量的研究手法の一例として作業遂行に関する既存の客観的分析・評価法および、質的研究手法を用いたデータ収集・分析・解釈の実践を通して、人の生活を成す作業を科学的に捉え研究する方法を学修する。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★伊藤文香講師）作業遂行に関する既存の客観的分析・評価法および、質的研究手法を用いたデータ収集・分析・解釈の実践を通して、人の生活を成す作業を科学的に捉え研究する方法を学び、作業療法にとって重要な「作業」に関する知識を増やす研究を提案する。</p> <p>（齋藤さわ子教授）作業そのものを科学的に捉え研究する方法の概観し、自己の作業と健康における臨床上の問題をどのような方法で解決すべきかの検討することを学修する。</p> <p>岩井和子非常勤講師</p>
活動障害解析・評価学特論	<p>分担教員とともに障害者の活動障害を解析・評価する様々な手法を紹介し討議を行う。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★藤田好彦准教授）活動障害を測るための尺度構成法、非観血的生理計測法を学習する。</p> <p>（中山智博准教授）発達障害領域の活動障害を解析・評価する様々な手法を学習する。</p> <p>（久保田茂希教授）臨床で応用されている脳機能画像解析についてとりあげる。活動を制約する生理的機能または回復過程の測定デザインについて学習する。</p>
活動障害解析・評価学特論演習	<p>特論の講義をさらに深めることに加え、活動障害に関する各自の研究テーマに沿った知見を広げ、臨床的研究法について学修する。</p> <p>（★石井大典准教授）先行研究データに基づき、自らの研究の位置づけを整理し、研究手法（量的研究手法）について、研究計画、研究デザイン、実施、解析の方法をディスカッションを通じて学修する。</p> <p>具体的には、活動障害に対する実践研究について、様々なフィールドから研究を読み解きながら学び、科学的に評価・測定・分析・評価を行う。また、それらをまとめ、今後の活動障害に対する介入において必要と考えられる研究の立案、実施を想定した発表を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
活動障害治療・介入学特論	<p>作業療法学の臨床上的有用性や新たな取り組み、介入方法などについて、白石英樹は全体を統括し、井出教授及び非常勤講師の村木敏明先生、吉田直樹先生とともに分担講義する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★白石英樹教授) 国内・外での作業療法における治療(介入)と評価及び効果について、基礎的研究や臨床的研究(調査的・実験的・症例研究など)から議論・分析を行い学修する。</p> <p>(井出政行教授) 諸外国の精神保健や精神医療の背景にある文化、歴史や制度について講義する。</p> <p>(村木敏明非常勤講師) 老年期における「生活を診る」evidence-based practiceに関する思考法について学修する。</p> <p>(吉田直樹非常勤講師) ヒトの運動のメカニズムをロボットなどの機械と対比しながらモデル化し、そのモデルを通して運動・活動障害の評価や治療について考える。</p>
活動障害治療・介入学特論演習	<p>特論の講義をさらに深めるため、特論での講義の知識に基づいて演習を通して臨床的研究の実際を学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★白石英樹教授) 臨床や事例報告などにおける治療的介入や活動の根拠について各障害の特性と治療的介入が求める動きや活動の分析(各種測定機器を用いて実習的分析)を行い、学修を進める。</p> <p>(井出政行教授) ケースカンファレンスを通じて地域での精神障害リハビリテーションを取り巻く問題についての理解を深める。</p> <p>(村木敏明非常勤講師) 老年期対象者のADLの作業療法的分析・評価・介入などについて学修する。</p> <p>(吉田直樹非常勤講師) 福祉機器の選定・製作・設定などを題材として、そのために必要な障害の解析(対象者の解析と、機器や環境の解析)などについて学修する。</p>
地域支援作業療法学特論	<p>地域作業療法について、わが国の制度や施策からその位置づけを学修すると共に、現在実施されている研究、今後必要とされる研究について、研究計画、研究デザイン、実施、解析の方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★堀田和司教授) 主に、公的資料、公的データを中心に、検索・活用の方法、読み解き方を学修すると共に、作業療法領域で必要となる研究デザイン、解析について学修する。</p> <p>地域作業療法に関連する問題について、関連論文の検索方法から、論文の読み解き方(研究計画、デザイン、方法)について学修する。</p>
地域支援作業療法学特論演習	<p>地域支援作業療法学特論で習得した知識に基づき、作業療法研究において、国の制度や施策に適合した、必要とされる研究、影響力を持つ研究とは何かを演習を通じて学修する。</p> <p>(★若山修一准教授) 主に、公的資料、公的データに基づき、自らの研究の位置づけを整理し、作業療法領域で必要となる研究手法(量的研究手法)について、研究計画、研究デザイン、実施、解析の方法をディスカッションを通じて学修する。</p> <p>地域作業療法に関する問題について、国の制度や施策に関連する論文から、その読み解き方(研究計画、デザイン、方法の整理、要点のまとめ方)と研究への応用について演習を通じて学修する。</p>

【放射線技術科学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
医用画像情報学特論	<p>(★森浩一教授) 放射光光源から得られる強力な高エネルギーX線を用いた撮影システム(入射器、蓄積リング、挿入型光源、収束電磁石、X線分光器など)と、このシステムを用いたX線位相コントラスト画像法による軟組織の画像情報取得技術について学修する。また、新しい医療画像情報技術として、MDCT画像を用いた有限要素法(CT-FEM)による骨強度の予測法(骨粗鬆症の病態評価、転倒骨折リスク予測など)について学修する。</p>
医用画像評価学特論	<p>(★門間正彦教授、安江憲治助教) 医用画像の臨床的有用性はその画質に大きく左右されるため、臨床より良い画像を得るためには画像の画質評価が不可欠となっている。</p> <p>X線及び画像検出器の物理的特性と医用画像の画質との関係を明らかにし、フーリエ解析、信号検出理論、感光理論に基づいて解像力、粒状性、特性曲線等の画質因子に関する物理的特性及び医用画像における画質評価法の基礎とその応用について学修する。</p>
医用画像解剖学特論	<p>(★馬場健教授) 放射線診断技術の進歩により生体の断面像等は無侵襲的に描出できるようになったが、得られた画像情報の正しい理解には、人体の正常構造と三次元的位置関係に関する確実な知識が必要である。本講では人体標本や人体骨標本、光学顕微鏡標本等を用いて、画像診断に必須な正常人体解剖学について肉眼的および組織学的レベルで学修する。</p>
磁気共鳴科学特論	<p>磁気共鳴現象を利用した医用画像は組織の識別に優れており、重要な診断技術として利用されている。最新のMRI画像及びMRAの適正化技術などについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★門間正彦教授、石森佳幸准教授)</p>
医療情報学特論	<p>(★井田博史教授) 国内外の先行研究から、医療情報システムの現状と課題を学習する。特に、医療で取り扱うデータの取扱い方法や情報の項目、集積したデータの活用方法、セキュリティについて理解する。加えて、近年増加している携帯端末等のデバイスによる健康管理や多職種間における患者情報の共有について考察する。また、情報を科学的に解析する統計手法について学ぶ。</p>
画像検査技術学演習Ⅰ	<p>生体物質や各種の材料中でX線波動が引き起こす物理的現象(吸収、散乱、屈折、干渉など)の数学的取扱いと、これらの諸効果を利用した新しい医用X線画像法、および最近の臨床応用例について、論文講読や計算演習などにより学修する。また、MDCT画像を用いた有限要素法(CT-FEM)による骨強度の評価法についても学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★森浩一教授、兵藤一行非常勤講師)</p>
画像検査技術学演習Ⅱ	<p>医用画像として一般化しているデジタル画像を中心に、画像の成り立ちを理解し、再構成法や画像評価法を学修する。サンプルデータを用いた演習により実際の解析手順を学修する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部))</p> <p>(★門間正彦教授、石森佳幸准教授、安江憲治助教)</p>

授業科目名	講義等の内容
総合画像情報特論	<p>画像情報学は放射線物理学の理解、放射線の情報処理に始まり、診断対象や診断機器に関する物理学、解剖学、放射線診断学など多岐にわたる。医学物理士が習得すべき診断物理学に関する内容を中心に、系統的に学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★阿部慎司教授、馬場健教授、森浩一教授、安江憲治助教)</p>
核医学情報解析学特論	<p>(★鹿野直人准教授) 核医学画像は、放射性医薬品の生体内での臓器の吸収、分布、代謝、排泄などの機能を可視化したものである。この生体機能画像から臨床に有用な情報を抽出するためには、生体内での生理機能、生化学機能、病態についてよく理解したうえで、適切な解析方法を開発、応用することが必要である。ここでは主に中枢神経系の病態との関連について学修する。</p>
核医学技術学特論	<p>核医学画像の特徴である臓器の機能解析を通して、核医学検査の臨床的意義について理解する。また、その理論や方法について技術的な側面から理解し、測定値の精度を担保するための手法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★須田匡也准教授、藤崎達也教授)</p>
生体情報解析学特論	<p>(★相良順一准教授) コンピュータ・ネットワークから得られる生体情報の利用と解析の方法を学ぶ。また、C言語、マクロ(VBA)等を用いたプログラミングによる自作ソフトウェアのデータ解析における有用性を学ぶ。さらに、各自が関心をもつテーマについて、コンピュータ・ネットワークの活用事例の調査等を行う。作りたいアプリがあれば、可能な範囲でアドバイス等を行う。「ヒヤリハット報告書」の入力・集計を行いたいという学生の要望から、エクセルVBAでアプリの作成をアドバイスした事例あり。</p>
生体機能画像特論	<p>核医学検査は臓器の血管病変や臓器機能と密接な関係がある領域である。心血管系疾患、脳・神経系疾患、あるいは悪性腫瘍など、様々な臓器病変における核医学検査、特にPET、SPECTなどの核医学画像の結果を正確に評価、解釈するためには、顕微鏡レベルでの病理学、病態生理学、更にはその局所病変の背景にある分子生物学的な知識と基本的測定技術に関する理解の両者が不可欠である。本授業では、臓器病変の形態とその機能異常について、生理学、細胞・分子生物学、炎症学や腫瘍学など、多角的な観点からの授業を展開し、基礎医科学と臨床放射線診断学との統合を図る。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★松元秀次教授、須田匡也准教授、鹿野直人准教授)</p>
放射線安全管理学特論	<p>(★布施拓講師) 医療において放射線を安全、有効に用いるための放射線安全管理に関する知識と技術について学修する。また、医用放射線管理の特殊性を考慮して診療放射線品質保証管理の理論と具体的な手法を併せて学ぶ。医療施設における放射線管理組織の構築と、医用放射線安全管理技術の普及に関する今日的課題と将来展望について討議・検討する。</p>

授業科目名	講義等の内容
核医学技術学演習 I	<p>核医学画像の画質に影響する撮像、処理の因子について文献にて理解する。また、画像処理技術（画像再構成、散乱補正、減弱補正、空間分解能補正）および性能評価法について、サンプルデータを用いた演習を行うことで理解する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★須田匡也准教授、藤崎達也教授)</p>
核医学技術学演習 II	<p>(★鹿野直人准教授) 放射線の取り扱いや管理に従事する際に知っておくべき放射線の基礎知識を整理し学習する。第一種放射線取扱主任者試験レベルの知識を習得し、実務を行う際の放射線物理学、放射化学、放射線化学、放射線生物学、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線に関する法令の基礎知識を習得する。</p>
総合核医学特論	<p>核医学技術学領域は検査機器や検査技術学のみならず、放射線物理学、基礎医学・生理学、放射線防護学、核医学診断学などと密接な関係にあり、その学問領域は多岐にわたる。医学物理士が習得すべき核医学および放射線防護に関する内容を中心に、系統的に学修する。</p> <p>(★須田匡也准教授、馬場健教授、布施拓講師)</p>
放射線治療技術学特論	<p>放射線治療において治療効果を上げるための方法について学修する。技術的、臨床的な質的保証(QA)の必要性を学び、QAを満足するための具体的な保守管理について学修する。放射線治療における各過程についての質的保証や保守管理を学ぶことで、総合的に治療効果を評価し、治療法の発展に寄与できる能力を身につける。</p> <p>(共同)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教)</p>
放射線腫瘍学特論	<p>放射線治療の基礎として、腫瘍細胞に対する放射線の細胞レベル、分子レベルの作用について理解すると共に、放射線による細胞の損傷、回復、さらに放射線と化学療法や温熱療法との相互作用、増感効果などについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、松本孔貴非常勤講師)</p>
線量計測学特論	<p>放射線治療において特殊かつ今後の発展が予想される照射法（画像誘導放射線治療、強度変調放射線治療、定位放射線治療、陽子線治療および重粒子線治療など）の改善と所要の線量および線量分布計測および品質管理を含めて学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、齋藤秀敏非常勤講師)</p>
先端放射線治療学特論	<p>放射線に対して抵抗性が高いがんにも重粒子線や熱中性子線、また早期局在がんにも陽子線が有効とされる。これらのさらなる治療成績の向上を目指して、生物学的及び物理学的特性に基づく治療手法の改良、発展について学修する。</p> <p>(オムニバス方式・共同)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教、榮武二非常勤講師、奥村敏之非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
医療機器システム学特論	<p>放射線治療において特殊かつ今後の発展が予想される画像誘導放射線治療、強度変調放射線治療、定位放射線治療、陽子線治療および重粒子線治療などの照射装置、また位置決定のための高精度イメージング装置や照射方法決定のための治療計画、さらにこれらを機能的に結び付けるネットワークシステムなどの原理や特徴について品質管理方法を含めて学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、齋藤秀敏非常勤講師、森浩一教授)</p>
放射線治療技術学演習 I	<p>放射線治療の物理特性および品質管理について、文献の抄読を通して最新の知見、考え方について学ぶ。また、高精度放射線治療に必要な線量計測、患者セットアップ、線量計算などについて演習・実習を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共通)</p> <p>(★藤崎達也教授、榮武二非常勤講師)</p>
放射線治療技術学演習 II	<p>放射線治療における照射方法、集学的治療などについて、最新の文献資料を検討し、具体的な実験及び演習により所要のデータの取得、解析を行い、各種の治療計画に対応した患者固定、ターゲット確認、治療記録ファイリング及び治療成績の統計処理法を習得する。また、ラジオサージェリ(SRS)、SRT、IMRT等の多様な治療方法につき臨床データも使用して、治療効果改善の考え方と対応方法を学修する。</p> <p>(共通)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教)</p>
総合放射線治療特論	<p>放射線治療は放射線物理学の理解、放射線の線量測定に始まり、放射線の生物作用、正常組織、腫瘍組織の放射線に対する反応、病理学的理解、放射線治療法など多岐にわたる。医学物理士が習得すべき放射線治療に関する内容を中心に、系統的に学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、菅原信二非常勤講師)</p>
基礎医学物理学	<p>(★藤崎達也教授、阿部慎司教授) 医学物理学を理解する上で基本となる力学、電磁気学、熱力学・統計力学、量子力学および原子核物理学を含む基礎物理について学修する。医学物理学を学修する上での基礎となる科目であり、基礎物理の医学物理的思考を身につけるために、学士教育で物理学、医用工学、放射線物理学などを習得している場合には、医学物理教育ガイドラインの内容を充足するよう履修内容に合わせて学修する。</p>
医学物理学実習	<p>講義での学修内容を身につけるために実習を行う。保健物理学・放射線防護学、画像診断学、核医学物理学および放射線治療物理学のそれぞれを実習する。内容は、講義内容に関連した実習科目とし、それぞれの領域での特色あるものを実習する。</p> <p>(共通)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教)</p>

授業科目名	講義等の内容
高度専門放射線治療技術学特論	<p>多様な新ニーズに対応するがん専門医療における希少がんおよび小児がんについて、患者が安心して適切な集学的医療を提供できる医療チームのための放射線治療の基礎知識を学修する。ライフステージによって異なる病態を適切に理解し、患者中心の医療を推進するための放射線治療の基礎知識を学習する。</p> <p>(共同) (★藤崎達也教授、宮川真助教、奥村敏之非常勤講師)</p>

【医科学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
基礎医科学 入門	<p>医科学分野の研究を進めるうえで必要な解剖学、生理学、生化学について概説し、それぞれの分野の研究手法について紹介する。</p> <p>キーワード：解剖学、生理学、生化学</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★馬場健教授、角友起准教授、相良順一准教授</p>
神経科学：細 胞、動物、そ してヒト	<p>今日の目覚ましい脳神経科学の発展の土台となる生物学や神経科学の最前線を、細胞培養系や動物実験系からの解析を介して概説する。特に基礎生物学（発生・再生・細胞生物学）ならびに神経機能に関する、細胞間応答システム、細胞内輸送機構、細胞移動制御、発生・発達制御などの理解に必要な知識を習得する。さらに生活習慣病、がん、老化などに関連する環境要因、エピジェネティクス制御によって影響をうける細胞レベルでの変化と、実際の神経変性疾患との関連性についての理解を深める。ヒトと実験動物を対象とする神経科学と神経生理学的手法を用いて、運動と感覚障害、高次脳機能障害、不安症などに対する効果的な治療法の開発を概説する。</p> <p>キーワード：基礎生物学、神経科学、細胞間応答システム、細胞内輸送機構、細胞移動制御機構、発生・発達制御機構、エピジェネティクス制御、神経変性疾患、脳の可塑性と機能回復、モデル動物の解析と臨床応用</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★内田敦子教授、石井大典准教授</p>
高次脳機能 と先端ニュー ロサイエ ンス	<p>高次脳機能を評価し、病態を解明する最先端の科学について、非侵襲的解析方法の開発の経過などを介して概説する。</p> <p>最新の脳波や機能的 MRI などの計測方法やグラフ理論やシナジー解析など新たな解析方法を紹介しながら、脳科学の基礎からアルツハイマー病や外傷性脳損傷による高次脳機能障害の臨床まで、受講者と議論しながら主体的に学修する。</p> <p>また、通常の MRI では異常が認められない疾患を中心に脳機能・微小構造学的の変化について最新の知見を紹介する。画像解析については実際のデータをもとに、解析の手順をみてもらい、ソフトの紹介や実際の解析手順について指導し、画像解析の利点と限界の理解を深める。</p> <p>キーワード：非侵襲的解析方法、脳波、機能的 MRI、グラフ理論、シナジー解析、アルツハイマー病、外傷性脳損傷、高次脳機能障害、画像解析</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★河野豊教授、石井大典准教授、青山敏之准教授、山本哲助教、井出政行教授</p>

授業科目名	講義等の内容
ライフサイクルとメンタルヘルス	<p>メンタルヘルスとは心の健康はもとより心の病気まで含む幅広い概念であり、生物学的、心理学的、社会的な要因の影響を受けるものである。われわれは人生の各ステージにおいて様々な体験をするが、それらはメンタルヘルスに影響を及ぼす。そのため、メンタルヘルスを維持または向上させるためには、ライフサイクルの視点を持つことが重要である。そこで、本講義では、オムニバス方式により、各ライフサイクルの段階におけるメンタルヘルスの基礎的知識と、生物学的な視点に基づく画像診断とメンタルヘルスの関連についての基礎的知識を享受する。また、メンタルヘルス研究の方法や臨床について受講者と議論しながら主体的に学修する。ライフサイクルの段階としては、小児期、青年期、成人期、高齢期を想定する。</p> <p>キーワード：精神遅滞、統合失調症、気分障害、産褥期精神病、認知症、虐待、いじめ、不登校、発達障害、ゲーム障害、自殺、青年期、対人関係、自己形成、キャリア形成、自殺予防、認知症、疾患修飾薬、画像診断、地域連携</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★井出政行教授、中山純子准教授、佐藤純教授、鯨岡裕司講師</p>
臨床医学の最前線	<p>医工連携、内科学、外科学、リハビリテーション医学、小児科学、スポーツ医学、救急医学の最前線を概説する。</p> <p>キーワード：医工連携最前線、内科学の最前線、外科学の最前線、リハビリテーション医学の最前線、小児神経科学の最前線、スポーツ医学の最前線、救急・災害医療の最前線</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★河野了教授、鯨岡裕司講師、松元秀次教授、中山智博准教授、六崎裕高教授、田口典子教授</p>

【博士前期課程】

指導教員と研究概要

指導教員と研究概要（看護所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 高村 祐子 takamura@ipu.ac.jp	健康問題を抱える高齢者の、急性期からエンド・オブ・ライフのあらゆる場における、よりよい看護実践とQOLの探求を目的とした研究を行う。また、高度実践看護師（老人看護専門看護師）に求められる看護実践能力を修得するための課題に取り組む。	高齢者を対象にした臨床看護実践に関する研究
		高齢者の家族や介護者に関する研究
		高齢者の看護に関わる専門職に関する研究
教授 富田 美加 tomitam@ipu.ac.jp	看護におけるデータや情報、知識について、EBP(evidence-based practice)の観点から課題を明らかにし、人々の健康に寄与するための方策を探究する。	看護における学術情報の探索及び活用に関する研究
		看護学におけるアーカイブズに関する研究
教授 中村 博文 nakamurahir@ipu.ac.jp	精神保健看護及び地域精神保健活動における看護援助の方法論的な確立に向けた研究を行う。精神看護学的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得するための課題に取り組む。また、精神看護学教育のあり方についての理論および方法論の研究も取り扱う。精神看護専門看護師の役割とその具体的介入方法についての研究等も扱う。	精神科看護の臨床実践についての研究
		精神看護学における教育と医療の連携に関する研究
		精神障がい者の社会復帰・社会参加に関する研究
教授 藤岡 寛 fujiokah@ipu.ac.jp	様々な疾患・障害・発達段階・社会背景をもつ子どもへの援助方法を探求する。特に、子どもの生活基盤である「家族」に注目する。各家族員や家族全体のユニット等の多角的な視点で家族機能を把握、評価する。	長期入院が子どもや家族に及ぼす影響
		在宅で障害児を養育している家族の生活調整、障害受容
教授 山口 忍 yamaguchis@ipu.ac.jp	公衆衛生看護の中でも特に地域母子保健や地域づくりについての研究に取り組み、地域の健康水準向上に向けた支援について探求する。また、保健師に必要なとされるコンピテンシーやそのための教育についても研究的に取り組む。	地域母子に関する研究
		胎児性水俣病と保健師活動に関する研究
		保健師のコンピテンシーと人材育成に関する研究
		地域ケアシステム構築に関する研究
教授 山波 真理 yamanamim@ipu.ac.jp	ウイメンズヘルス看護領域において、周産期のケアや産後のヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルスに関する研究を行い、その支援方策を探求する。	周産期ケアの実践についての研究
		リプロダクティブヘルスに関する研究
		母性看護学・助産学教育に関する研究
准教授 大江 佳織 oek@ipu.ac.jp	成人看護学領域において、臨床看護実践やヘルスプロモーションに関する研究を行い、その支援方策を探究する。	成人を対象にした臨床看護実践に関する研究
		ヘルスプロモーション・健康教育に関する研究
准教授 笠井 久美 kasaik@ipu.ac.jp	疾病や障害のあることもと家族への支援や、子育て支援の研究を行い、その方策を検証する。	疾患や障害のある子どもの健康維持・増進に関する研究
		疾患や障害のある子どもをもつ親の育児支援に関する研究
		小児における継続看護についての研究
准教授 山海 千保子 sankaic@ipu.ac.jp	母親の心理面に関することで、母親の育児ストレスや、その対策についての研究を行い方策を検証する。また、助産師教育・看護師教育に関する研究。	心理療法を参考にした育児ストレスを軽減する研究
		母親の心理的負担の原因に関する研究
		母性看護基礎教育に関する研究
准教授 渡辺 忍 watanabeshino@ipu.ac.jp	介護保険制度による医療依存度の高い要介護高齢者への看護や介護サービスにおける課題を明らかにするため量的・質的研究を行う。	医療・介護サービス間の連携に関する研究
		要介護高齢者の医療的ケアに関する研究
		介護サービスで働く看護職に関する研究

指導教員と研究概要（理学療法学・作業療法学所属教員分）

<理学所属教員分>

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 浅川 育世 asakawa@ipu.ac.jp	主に地域に暮らす障害者の活動制限、参加制約に関する基礎および臨床的研究を行う。	障害者の活動制限、参加制約に関する臨床的研究 新たな活動制限、参加制約の評価指標の開発 活動制限、参加制約に対する効果的な理学療法介入の検討 国際生活機能分類のコーディングシステムの活用に関する研究
教授 上岡 裕美子 yakamioka@ipu.ac.jp	(1)地域または施設に暮らす高齢者・障害者への理学療法の知識・技術の適用について、評価方法、効果検証に関する臨床的調査研究を行う。 (2)地域で活躍できる理学療法士の教育に関する研究を行う。	訪問リハビリテーションの効果検証に関する臨床的研究 訪問・通所リハビリテーションにおける活動・参加の目標共有と達成度評価による効果の検証 理学療法教育における客観的臨床能力試験（OSCE）実施方法の確立 地域で活躍できる理学療法士の教育プログラム構築に関する研究
教授 滝澤 恵美 takizawa@ipu.ac.jp	人の運動機能は、ヒトとしての身体構造に基づく制約のなかでそれぞれの身体活動に基づく運動特性に応じて成長および発達、または老化することで個性を持つ。運動機能の個性と身体活動との履歴の関係を、児童および高齢者を中心に疫学的研究による特性分析、あるいは介入研究を行い運動解析、動作解析を行う。	運動の調整力（協調性）、基本的動作の変化からみた学童期における運動遊びの意義に関する研究 運動器検診の結果に現れる発達特性に基づく身体活動に関する研究 加齢に伴う歩行の変化と自己調整力に基づく理学療法介入に関する研究
教授 富田 和秀 tomitaka@ipu.ac.jp	呼吸リハビリテーションに関する基礎および臨床的研究を行う。	呼吸リハビリテーションに関する基礎的研究 MRIを用いた横隔膜運動の動的評価と効果的な呼吸理学療法の開発 腹壁電気刺激による呼吸筋機能回復トレーニングの研究 c-Fos免疫組織化学的標識法を用いた呼吸中枢の評価と効果的な呼吸理学療法の開発
教授 水上 昌文 mizukami@ipu.ac.jp	脊髄損傷者の動作能力と身体機能との関係を検討することで、動作能力改善手技及びその有効性について検討する。 ロボットスーツHALを用いたリハビリテーション効果について検証する。	脊柱形態からみた姿勢の評価方法に関する研究 脊髄損傷者の起居移動動作のバイオメカニクス的研究 頸髄損傷者の機能評価方法に関する研究 頸髄不全麻痺者の歩行能力の規定要因に関する研究 ロボットスーツHALによるリハビリテーション効果に関する研究
准教授 青山 敏之 aoyamato@ipu.ac.jp	神経科学的手法や運動学的手法、筋電図学的手法を用いることで中枢神経疾患や運動器疾患、スポーツ障害など様々な領域におけるリハビリテーションの評価や治療の開発に関わる基礎研究や臨床研究を行う。	脳卒中片麻痺患者における歩行の筋電図学的分類の確立に関する研究 視覚刺激による運動錯覚や運動イメージ想起法を用いた介入法の効果検証 表面筋電図を用いた運動単位抽出法による各疾患の神経筋機能の解明に関する研究 経頭蓋磁気刺激や末梢神経電気刺激、経頭蓋直流電気刺激等の手法を用いたヒトの運動制御機構解明に関する基礎的研究 フォーカルジストニアやイップスの病態解明と治療法の開発に関する研究
准教授 篠崎 真枝 shinozaki@ipu.ac.jp	リハビリテーション専門職における臨床教育および理学療法教育の効果検証、教育システムの開発を行う。	リハビリテーション専門職の臨床教育に関する研究 理学療法教育における教育技法・方略の検証
准教授 橋 香織 tachibana@ipu.ac.jp	障がい者スポーツの普及、育成、競技力向上に資することを目的とした基礎および臨床的研究を行う。	車いすバスケットボールにおけるパフォーマンス改善のためのトレーニング方法の開発 車いすバスケットボールの客観的クラス分け手法の開発のための動作解析研究 地域における障がい者スポーツの普及振興に関する研究
准教授 松田 智行 matsudato@ipu.ac.jp	わが国の保健医療福祉制度において、理学療法が必要な人に必要な理学療法サービスが提供されているか、また、理学療法の質が確保されているかを、ヘルスサービスリサーチの手法を用いて評価・検証を行う。	介護保険制度における理学療法サービス 医療制度（特に難病法）における理学療法サービス 地域包括ケアシステムにおけるサービス提供体制の検証
助教 瀬高 裕佳子 okunoyu@ipu.ac.jp	画像診断・呼吸機能検査・疫学調査等の手法を用いた呼吸リハビリテーションに関する基礎・臨床研究を行う。	生理学的見地からみた呼吸リハビリテーションの検証 咳嗽機能向上に向けたケア/リハプログラムに関する研究 茨城県内における呼吸リハビリテーションの実態調査および地域連携の構築に関する研究
助教 宮田 一弘 miyatake@ipu.ac.jp	リハビリテーションで用いられるアウトカムメジャー（パフォーマンステストや質問紙）の検証や開発、臨床活用に関する研究指導を行う。	尺度特性（妥当性・信頼性・反応性）に関する研究 臨床的に意義のある最小変化量（MIC）を推定する研究 予測モデルの開発・検証
助教 山本 哲 yamamotos@ipu.ac.jp	中枢神経障害患者を対象とし、脳機能イメージングや、医工連携により新規開発されたデバイスを用いて運動機能障害のメカニズムを解明するとともに、効果的な運動療法の構築に関わる研究指導を行う。	脳機能イメージングや非侵襲的脳刺激法を用いた中枢神経障害患者の回復メカニズムの解明と介入方法に関する研究 ウェアラブル歩行測定システムの開発および臨床応用に関する研究 生活期における身体活動量増大を目指した統合的なウェアラブル測定システムの開発

<作業所属教員分>

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 久保田 茂希 kubotashi@ipu.ac.jp	脳血管障害、脊髄損傷における中枢性運動機能障害、および運動器疾患に伴う運動機能障害に対して、上下肢装着型動作支援ロボット技術を用いたロボットリハビリテーション治療を実施し、その訓練実行可能性、安全性、有効性について検証を行う	上下肢装着型ロボットを使用したロボット訓練の安全性に関する研究 上肢ロボットを使用したロボット訓練の有効性と電気生理学的評価に関する研究 脊髄損傷者に対するロボット訓練の実行可能性、有効性に関する研究
教授 齋藤 さわ子 saitos@ipu.ac.jp	(1)人と作業と健康・幸福の関係を調べることで、作業機能の発達促進法、作業機能障害の改善法・予防法、作業を用いた健康促進方法を探索する。 (2)作業習得のプロセスを探索することで、効果的な作業の可能化の戦略を開発する。	作業の習得・維持・再習得に関する研究 作業の意味・形態・機能と健康・幸福の関係に関する研究 作業を基盤とした評価法の開発とその実践における有用性の研究
教授 白石 英樹 shiraishih@ipu.ac.jp	身体障害領域における作業活動の解析や作業療法介入の効果について、各種機器などを用いて定量的に検証を行う。また、手の機能についても様々な角度から調査・検討を行う。	身体障害者に対する作業療法（作業活動）介入の生理的・身体的・治療的効果に関する研究 様々な活動に対する定量的測定分析に関する研究 手の機能やスプリント・器具の治療的介入に関する研究
教授 堀田 和司 hotta@ipu.ac.jp	地域および高齢期作業療法領域における作業療法介入の効果について、縦断的および横断的研究手法を用いて定量的検証を行う。	高齢期作業療法領域における作業療法介入の効果に関する研究 介護予防事業による効果の測定・評価 地域在住高齢者の健康に関する研究 高齢者、障害者スポーツ
准教授 石井 大典 ishiid@ipu.ac.jp	ヒトおよび実験動物を対象に、神経科学および神経生理学的手法を用いて運動・感覚障害、高次脳機能障害、不安症などに対する効果的な治療法の開発研究を行う。また、運動制御や感覚情報処理、注意機能に関する基礎的研究を行う。	脳損傷後に生じる感覚入力経路の再編成と新規介入方法の開発 経頭蓋直流電気刺激による認知機能調節効果の検証 半側空間無視マウスモデルの確立と回復能の調節差に着目した回復促進因子の同定 恐怖記憶の再燃予防に関わる研究 精神的緊張が運動制御に及ぼす影響に関する研究
准教授 藤田 好彦 fujitay@ipu.ac.jp	作業療法士として身体活動量の増加や座位行動時間の短縮を目的とした介入効果についての定量的な検証を行う。	介護予防事業における介入効果に関する研究 地域高齢者における身体活動に関する研究
准教授 若山 修一 wakayamas@ipu.ac.jp	地域作業療法領域において、高齢者を対象とした介護予防や健康増進を目的としたプログラムの開発、介入効果についての検証を行う。	地域高齢者における閉じこもり予防・支援に関する研究 地域高齢者における生活機能向上プログラムの開発に関する研究
助教 唯根 弘 yuinehi@ipu.ac.jp	脳卒中後上肢麻痺やハンドセラピー対象疾患において、上肢機能と作業活動の関連や作業療法介入の効果について調査・検討を行う。また、事例研究やシステムティックレビューを通して、作業療法士と連携し課題志向型アプローチや生活行為向上マネジメントの効果検証を行う。	上肢機能評価・介入に関する研究 課題志向型アプローチ、生活行為向上マネジメントに関する研究 作業療法評価・介入のシステムティックレビュー、メタアナリシス

指導教員と研究概要（放射線技術科学所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 藤崎 達也 hujisaki@ipu.ac.jp	高精度な放射線治療を実施するための照射法、セットアップ法、治療計画法、吸収線量計算法、精度管理法などの開発・改善を目的とした研究を行う。	放射線治療システムのQAに関する研究 4次元放射線治療法の開発
教授 門間 正彦 monma@ipu.ac.jp	MRIにより得られた生体に関するさまざまな情報を処理することにより、生体機能の基礎的研究およびその解析手法の開発を行う。また、MRIやFPD等の医用画像装置の画像特性の研究を行う。	MRIによる生体計測に関する研究 医用画像装置の画像特性の研究
准教授 石森 佳幸 ishimori@ipu.ac.jp	医用画像診断における新技術の開発や評価に関する研究を行う。特にMR撮像技術を中心に、画質改善にかかわる技術的要素の最適化や安全性の評価に関する研究を行う。	MRI撮像技術の最適化に関する研究 医用画像検査の画質や安全の評価に関する研究
准教授 鹿野 直人 shikano@ipu.ac.jp	セラノスティクス（Theranostics＝治療Therapeutics＋診断Diagnostics）を意識した放射性医薬品に関する基礎的研究および応用的研究を行う。	中性子捕捉療法（BNCT）によるがん治療への放射性医薬品の臨床・基礎利用に関する研究 ガン、脳機能、動脈硬化、腎機能を診断目的とした放射性医薬品の基礎開発
講師 布施 拓 fuseh@ipu.ac.jp	医療における被ばく線量の管理や放射線計測に関する研究指導を行う。	モンテカルロシミュレーションを用いた医療における被ばく線量の推定と放射線安全管理に関する研究 医療で用いられる放射線計測に関する研究

指導教員と研究概要（人間科学センター、医科学センター所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 井出 政行 idema@ipu.ac.jp	経頭蓋磁気刺激誘発脳波などの手法を用いて、精神疾患の生物学的なバイオマーカーの探索や、病態生理の解明を目指す研究を行う。	経頭蓋磁気刺激誘発脳波を用いた精神症状の評価 精神科デイケアの効果的な施行に関する研究
教授 河野 了 kawanosa@ipu.ac.jp	心不全、敗血症などの急性疾患のメカニズムと治療を、主に分子生物学的手法を用いて探索することをめざす。日常診療におけるクリニカルエッセンスの生理学的解明のために、各種生理検査や画像検査を用い臨床研究を行う。	循環器病患者の治療、臨床に関する研究 敗血症の病態と治療方法に関する分子生物学的検討 回復期リハビリテーション病院における総合診療の役割の検討
教授 河野 豊 kohno@ipu.ac.jp	(1) 神経生理学的手法（脳波、誘発筋電図、経頭蓋磁気刺激法など）を用いて、運動制御や運動障害の発現の機序解明、神経可塑性を誘導するメカニズムに関する基礎的および臨床的研究を行う。 (2) 神経難病患者や高次脳機能障害者の支援や医療ネットワークに関する研究を行う。	電気生理学的手法を用いた運動障害の病態解明に関する研究 ニューロリハビリテーションに関する研究 経頭蓋磁気および直流電気刺激法を用いた機能評価や神経可塑性に関する基礎研究 神経難病患者や高次脳機能障害者のニーズや支援状況に関する研究 神経難病患者の医療支援ネットワークに関する研究
教授 桜井 直美 sakurai@ipu.ac.jp	地域住民の疾病予防、健康増進の観点から、感染症対策、感染予防について研究を行う。	地域における耐性菌サーベイランス 保健・医療・福祉の連携における地域包括的な感染予防対策
教授 田口 典子 taguchino@ipu.ac.jp	術後認知機能障害とは、主に高齢者に認められ、手術を契機に認知機能が継続的に低下する事である。術後のADLや生存率の低下、社会的な活動の制限など多くの問題を引き起こす。主に動物実験の手法を用い病態の解明と治療的介入法の開発を目指す。	周術期機能低下の軽減、予防に関する研究 心肺停止による全脳虚血後の脳組織の経時的変化の解明と機能評価
教授 松元 秀次 matsumotosh@ipu.ac.jp	麻痺や、歩行障害、嚥下障害をよくするリハビリテーション治療を開発し、その治療効果を検証する。また、病態発症機序との関係から治療効果発現のメカニズムを明らかにする。	臨床神経生理学的手法を用いたリハビリテーション医療の解明 ニューロリハビリテーション治療の開発 神経筋電気刺激のリハビリテーション医療への応用と開発
教授 六崎 裕高 mutsuzaki@ipu.ac.jp	運動器疾患（変性疾患、小児疾患、脊髄損傷、スポーツ傷害等）において、運動学的手法を用いて疾患の発症メカニズムを解明するとともに、様々な治療・リハビリテーションの効果を検証する。さらに新しい治療・リハビリテーションを開発する。	変形性膝関節症における運動学的手法と画像解析を融合させた発症メカニズムの解明 変形性膝関節症における腱硬度と歩行能力の関連 人工関節後患者、小児疾患患者へのロボットリハビリテーション介入効果の検証 前十字靭帯損傷後早期手術の下肢筋力、復帰後スポーツレベル、復帰時期への影響 前十字靭帯再建後のロボットスーツHAL介入研究
准教授 中山 智博 nakayamato@ipu.ac.jp	小児神経分野の疾患は、未だ未解明な部分も多い。例えば近年患者の増加が懸念されている神経発達障害は、その実数、病態はまだ明らかでなく、治療法は確立されていない。当大学付属病院小児科では、脳性麻痺を含む重症心身障害児、てんかん、神経発達障害の治療にあたっている。これらの患者を中心として、小児神経分野の疾患の疫学的、臨床的な研究、ミトコンドリア機能測定やメタボローム解析を用いた基礎的な研究を行う。さらには、これらの疾患に関して医療系専門職が直接患者や家族、学校関係者、地域医療サービスと関わることで患者の生活の質を高める方策を検討する。	脳性麻痺を含む重症心身障害児に関する研究：筋緊張亢進や側弯進行予防に対する効果的な介入に関する検討 てんかんに関する研究：効果的な薬物治療およびその補助療法の検討 神経発達障害に関する研究：疫学的調査、画像検査を用いた病態解明
教授 井田 博史 idahi@ipu.ac.jp	バイオメカニクス（生体力学）の立場からヒトの知覚運動パフォーマンスを究明する。運動学的・動力学的动作解析実験を中心とした従来のバイオメカニクスの方法論に加え、心理学や情報科学といった別分野の手法も取り入れて、運動スキル、スポーツ障害、立位バランスなど、ヒトの動作に関するさまざまなことが研究対象となる。	立位・歩行バランスを保持するための姿勢調節 ヴァーチャル空間における知覚運動制御 スポーツ場面における予測判断スキルやアスリートのハイパフォーマンス動作の動力学的解析
教授 内田 敦子 uchidaat@ipu.ac.jp	個々の細胞の脆弱性が癌転移や神経損傷に与える影響について、細胞骨格蛋白に着目し、分子細胞生物学的、およびバイオエンジニアリングの手法を駆使して解明する。さらに細胞自らが持つ外的メカニカルストレス耐性を生み出す構造を可視化し、損傷が乗じる過程をリアルタイムにとらえ観察することで詳細な仕組みを明らかにし、そこから得られた知見をもとに、メカニカルダメージに強い、新たな生体材料、トレーニング方法等の開発を目指すとともに、ALSをはじめとする軸索変性疾患の発生機構を明らかにする。	癌転移や神経損傷に関連する、中間径フィラメントの力学的強度の定量、バイオマーカーとしての信憑性についての検証 ALSをはじめとする軸索変性疾患の病態と発症機構の解明 神経細胞へのメカニカルダメージと細胞骨格の関連性、並びに圧迫性末梢神経損傷時に有効なポジショニング、動作の検討
教授 才津 芳昭 saitsu@ipu.ac.jp	主として社会学の知見に基づき現代医療の諸問題に対する理論的・実証的研究を行う。看護領域が中心となるが、その他医療全般についても扱う。	家族社会学 格差社会における健康格差・医療格差 医療技術が人間や社会に与える影響
教授 佐藤 純 satou.j@ipu.ac.jp	精神的健康を維持・向上するための心理学的援助方法の探求、ならびにそのための基礎的調査研究を行う。	援助要請・自己援助志向性に関する研究 青年期のキャリア発達過程に関する研究 死の自己決定に関する研究
准教授 倉本 尚美 kuramoto@ipu.ac.jp	1. 高齢者の食事支援 1-1. 嚥下音や食事中の姿勢を自動計測できるデバイスを利用し、嚥下障害者の嚥下活動や姿勢変動の特徴を科学的に分析 1-2. 高齢者施設、在宅等における食形態の変更や食事支援の工夫など検証 2. 障害児の食事支援 障害児の偏食や食事支援に関する研究 3. デバイス（機器）を活用し、動作やリハビリ効果などを科学的に検証	摂食嚥下動態の定量的な評価（量的研究） 在宅や施設の食事支援（食形態、姿勢、リハビリ等）（量または質的研究） 障害児の食事支援（偏食、食事姿勢、食事のペースなど）（量または質的研究） リハビリテーション効果の定量評価（データ分析）（量的研究）
准教授 相良 順一 sagara@ipu.ac.jp	地球上の生物は常に酸素の酸化力に脅かされている（酸化ストレス）。細胞は抗酸化力によってそれに対抗している。中枢神経系も例外ではない。培養神経細胞、グリア細胞を用いて、中枢神経系の抗酸化機構の研究を行う。	神経細胞・グリア細胞間の抗酸化機構の調節に関する基礎研究 神経系疾患と酸化的ストレスの関係の基礎研究 中枢神経系細胞を用いた抗酸化物質のスクリーニング
准教授 中山 純子 nakayama@ipu.ac.jp	小児期には染色体異常などの遺伝的な先天性疾患が比較的多い。現在の医学ではそれらの疾患を根治させることはできないが、精神運動面の発達を伴うことが多く、リハビリテーションが重要となる疾患である。けいれん性疾患は小児の神経疾患のなかで最も頻度が高く、その一部には遺伝的な素因が関与していることが知られている。当大学付属病院小児科では、脳性麻痺を含む重症心身障害児、てんかん、神経発達障害などの治療にあたり、これらの患者を中心として、小児神経分野の疾患の疫学的、臨床的な研究、基礎的な研究を行う。	小児けいれん性疾患における遺伝学的研究 小児遺伝性疾患患者に対するリハビリテーションの研究

【博士後期課程】

1 理念・目的

茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科保健医療科学専攻博士後期課程は、多職種の協働による利用者・患者中心の保健医療の実践及びその科学的根拠の構築を目指すために、博士前期課程で形成された看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学の各学術領域の連携を強化し、これらの領域を統合した1つの専攻により教育研究を行います。

2 学生定員

専攻	領域	入学定員	収容定員
保健医療科学専攻	看護学領域 理学療法学領域 作業療法学領域 放射線技術科学領域	5名	15名

3 修業年限

3年（4年を上限とした長期履修制度があります）

4 学位

保健医療科学専攻 博士（保健医療科学）

5 教育課程等

(1) 教育目標

本研究科では、1の理念・目的を達成するため、以下のような教育目標を掲げています。

- ア 保健医療の臨地・臨床実践において独自性の高い取り組みを提案し、リーダーシップを発揮することで、利用者・患者中心の保健医療に貢献できる能力を養う。
- イ 自立して保健医療科学の科学的根拠を構築するための研究を展開し、学際的研究・国際的研究に寄与できる能力を養う。
- ウ 保健医療科学の視点に立ち、大学および大学院教育を担うことのできる能力を養う。

(2) 特色

本研究科の教育課程は、前述の教育目標に基づき、多職種の協働による利用者・患者中心の保健医療の実践及びその科学的根拠の構築のために、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学の各学術領域の連携を強化し、これらの領域を統合した1つの専攻により専門的かつ包括的な教育研究を行うことを特色とし、体系的な教育課程として、「保健医療科学基礎科目群」「保健医療科学連携科目群」「保健医療科学専門科目群」及び「特別研究」の4つの科目区分でカリキュラムを構成しています。

ア 「保健医療科学基礎科目群」は、①保健医療科学に共通する重要な概念を理解・修得し、次世代を担える広い視野を持った高度専門職業人を養うこと、②保健医療科学連携科目群、保健医療科学専門科目群の履修における学術的基盤を築くこと、③国際的研究を視野に入れた実践的英語力を修得させることを目的としています。

このような目的のもとに、保健医療科学基礎科目群には、異なる職種を背景とした学生が、保健医療科学に関する共通の学術的基盤を形成するために有益な講義科目と演習科目を配置していま

す。

これらの科目を履修することで、次のステップである保健医療科学連携科目群、保健医療科学専門科目群の履修を円滑に進めるとともに、保健医療科学の全体像の理解促進を深めます。

イ 「保健医療科学連携科目群」は、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学の各領域間の融合を図るための科目を配置しています。

保健医療科学連携科目群の各科目は、学生の学際的視野を養うことを目的としており、次のステップである専門科目群に配置されている同名の演習科目の基盤となる知識を修得します。

ウ 「保健医療科学専門科目群」は、保健医療科学基礎科目群、保健医療科学連携科目群で修得したことを応用して、従来の看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学の各領域における知識、技術、考え方を発展させ、より深めるための学修を行います。

各領域が解決できる課題を広く求めることで、各領域の発展と深化を図ります。

また、保健医療科学連携科目群にある特講科目と同名の演習科目では、連携科目群で修得した知識に基づき、主に関連論文の読解による専門性の高い教育が行われます。

エ 特別研究は、学位論文を作成するための科目です。

特別研究では、これまでに修得した、保健医療科学基礎科目、保健医療科学連携科目及び保健医療科学専門科目における知識、技術、考え方を活用し、保健医療科学における新たな知見を得ることを目的とします。

保健医療科学専門科目群における学修を推し進めた成果が、特別研究へと繋がるカリキュラムになっています。

オ 授業は、主に夜間帯（18：30～21：40）及び週末等に授業を実施し、一部の科目を除き遠隔授業としております。これにより、在職のまま大学院に就学することができます。なお、一部の授業は昼間帯に実施する場合があります。

カ 保健医療科学専門科目群の「医学物理臨床実習」について

「医学物理臨床実習」は、放射線治療領域の専門的な実習を行うことで、医学物理士としての臨床・研究能力を養い、高度医療専門職を育成することを目的とした科目です。

本科目を履修する場合は、事前に必ず本科目の科目責任者に相談してください。

(3) 履修基準

科目区分		授業科目の名称	必修	選択	自由	講義	演習
保健医療科学基礎科目		保健医療科学特論	2				○
		保健医療科学方法論		1		○	
		医療政策論		1		○	
		専門英語	1				○
保健医療科学連携科目		生活支援学特講		2		○	
		リハビリテーション学特講		2		○	
		機能回復神経科学特講		2		○	
		病態解析診断学特講		2		○	
保健医療科学専門科目	看護学領域	看護学特講		2		○	
		看護学特講演習Ⅰ		1			○
		看護学特講演習Ⅱ		1			○
		生活支援学特講演習		1			○
	理学療法学領域	理学療法学特講		2		○	
		理学療法学特講演習		1			○
		リハビリテーション学特講演習		1			○
	作業療法学領域	作業療法学特講		2		○	
		作業療法学特講演習		1			○
		機能回復神経科学特講演習		1			○
	放射線技術科学領域	放射線技術科学特講		2		○	
		放射線技術科学特講演習		1			○
病態解析診断学特講演習			1			○	
医学物理臨床実習※				8		○	
共通科目	医療教育学特論			2			
	医療と教育論			2			
特別研究	特別研究	6				○	

※自由科目「医学物理臨床実習(8単位)」「医療教育学特論(2単位)」「医療と教育論(2単位)」については、単位は認定されるが修了要件単位には算入されない。

(4) 修了要件

- ・保健医療科学基礎科目群から必修科目3単位を含む4単位以上を履修する。
- ・保健医療科学連携科目群および保健医療科学専門科目群から6単位以上を履修する。その際、保健医療科学連携科目群から2単位以上、所属の領域の特講および特講演習から3単位以上を含める。
- ・特別研究6単位を履修する。
- ・特に優れた研究成果を挙げた者については、2年以上在学すれば足りるものとする。

- (5) 各領域における授業科目及び履修例
44 ページから 46 ページまでを参照

6 講義等の内容

47 ページから 56 ページまでを参照

7 指導教員と研究概要

57 ページから 62 ページまでを参照

【博士後期課程】

各領域における授業科目及び履修例

長期履修の場合は履修年次を1年延長する。

		看護学領域		理学療法学領域		
科目区分	単位数	履修年次	履修モデル1	履修モデル2	履修モデル3	履修モデル4
保健医療科学 基礎科目	2	1	保健医療科学特論	保健医療科学特論	保健医療科学特論	保健医療科学特論
	1	1・2	医療政策論 専門英語	保健医療科学方法論	医療政策論 専門英語	保健医療科学方法論
	1	1・2				
	1	1・2				
保健医療科学 連携科目	2	1・2	生活支援学特講	生活支援学特講	リハビリテーション学特講	機能回復神経科学特講
	2	1・2	看護学特講 看護学特講演習Ⅰ 看護学特講演習Ⅱ	看護学特講 看護学特講演習Ⅰ 生活支援学特講演習		
	2	1・2				
	2	1・2				
保健医療科学専門科目	2	1・2	看護学特講 看護学特講演習Ⅰ 看護学特講演習Ⅱ	看護学特講 看護学特講演習Ⅰ 生活支援学特講演習	理学療法学特講 理学療法学特講演習	理学療法学特講 理学療法学特講演習
	1	1・2				
	1	1・2				
	2	1・2				
	1	1・2				
	2	1・2				
	1	1・2				
	1	1・2				
	1	1・2				
	1	1・2				
1	1・2					
	6	1～3	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究
必修						
選択						
計						
			9単位	7単位(以上)	16単位以上	

履修モデル1：主として看護学に関する研究課題で学位申請する者

先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を目指す者）

履修モデル2：主として看護学に関する研究課題で学位申請する者

臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を旨指す者）

履修モデル3：主として理学療法学に関する研究課題で学位申請する者

先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を旨指す者）

履修モデル4：主として理学療法学に関する研究課題で学位申請する者

臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を旨指す者）

履修モデル1・3では、TAを経験することが望ましい。履修モデル2・4では、TAとRAを経験することが望ましい。

長期履修の場合は履修年次を1年延長する。

科目区分	単位数	履修年次	作業療法学領域			
			履修モデル5	履修モデル6	履修モデル7	履修モデル8
保健医療科学 基礎科目	2	1	保健医療科学特論	保健医療科学特論	保健医療科学特論	保健医療科学特論
	1 1 1 1	1・2 1・2 1・2 1・2	保健医療科学方法論 医療政策論 専門英語	保健医療科学方法論 専門英語	保健医療科学方法論 専門英語	医療政策論 専門英語
保健医療科学 連携科目	2	1・2	生活支援学特講	リハビリテーション学特講	機能回復神経科学特講	生活支援学特講
	2 2 2 2	1・2 1・2 1・2 1・2				
保健医療科学専門科目	2	1・2	生活支援学特講演習 理学療法学特講 理学療法学特講演習	作業療法学特講 作業療法学特講演習	作業療法学特講 作業療法学特講演習	生活支援学特講演習 作業療法学特講 作業療法学特講演習
	1	1・2				
	1	1・2				
	2	1・2				
	1	1・2				
	2	1・2				
	1	1・2				
	2	1・2				
	1	1・2				
	1	1・2				
6	1～3	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究	
必修			9単位	特別研究		
選択			7単位(以上)			
計			16単位以上			

履修モデル5：主として理学療法学に関する研究課題で学位申請する者

臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を指す者）

履修モデル6：主として作業療法学に関する研究課題で学位申請する者

先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を指す者）

履修モデル7：主として作業療法学に関する研究課題で学位申請する者

臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を指す者）

履修モデル8：主として作業療法学に関する研究課題で学位申請する者

先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を指す者）

履修モデル5・7では、TAとRAを経験することが望ましい。履修モデル6・8では、TAを経験することが望ましい。

【博士後期課程】

講義等の内容

【 保健医療医科学基礎科目 】

(★印は科目責任者)

授 業 科 目 名	講義等の内容
保健医療科学特論	<p>多職種協働による患者中心医療の実践において、患者ニーズに十分に応えるためには、専門知識のみならず、関連する知識の理解・習得が必要である。これは自己の技術や理論の発展、また科学的根拠を求めるためにも有益である。関連分野の知識を深めることで、臨床で遭遇する諸問題への理解が進み、自らの専門性をより深化させることができる。</p> <p>この科目では、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学、ならびにそれらに関連の深い領域（学際領域）における議論を通して、保健・医療・福祉に対する包括的理解を促す。また、学際領域の科目履修を円滑に進めることに役立てる。保健医療における技術科学の変遷、利用者・患者・家族へのアプローチ（個別支援、地域ケアシステムなど）、より良い保健医療を提供するための提案（情報伝達、情報共有化の方法など）、調整能力、リーダーシップの取り方（施設内システムの構築など）、学際的研究推進の意義などについて教授する。</p> <p>（★河野豊教授、桜井直美教授、富田和秀教授、馬場健教授、齋藤さわ子教授、吉良淳子教授、堀田和司教授、山口忍教授、上岡裕美子教授、富田美加教授、白石英樹教授、滝澤恵美教授、門間正彦教授、六崎祐高教授、藤岡寛教授、浅川育世教授、中山智博准教授、森浩一教授、水上昌文教授、松田智行准教授、藤田好彦准教授、布施拓講師、藤崎達也教授、才津芳昭教授、石森佳幸准教授、田澤あけみ非常勤講師）</p>
保健医療科学方法論	<p>保健医療科学・技術の研究・開発、及びその教育・実践等を進めるうえで必要不可欠な基礎的方法論を教授するとともに、その社会的役割や影響等を考察する。まず、実験研究、理論研究などの手法を様々な研究事例を通して学際的に学修し、柔軟な発想を養成する。また、科学・技術としての保健医療科学が社会に対していかなる影響を与えるか、あるいは与えられるか、どのような問題をはらんでいるか、を具体的事例に関する論争をまとめたテキストを読みながら考察する。</p> <p>（★才津芳昭教授、兵藤一行非常勤講師）</p>

授 業 科 目 名	講義等の内容
医療政策論	<p>西洋医学の歩み、社会保障制度の形成、公衆衛生体制の成立、そしてわが国における近年の健康日本 21 の推進、介護保険制度、特定検診・保健指導の発足などについて学ぶことによって、高度専門職医療人として各専門職の立場から医療制度の新しい展望についての理解を深め、21 世紀の「医療政策」がどのような課題に直面し、どのような方向に向かうべきか、議論・討論を通して考える。また、システムダイナミックスの考え方をもとにシミュレーションを施行し、具体的な医療政策を提案することで、各専門職業人の観点からこれらの課題について意見交換し、表現力・交渉力を育成する。</p> <p>(★河野了教授)</p>
専門英語	<p>研究成果を海外の専門会議等で報告するための実践的技術について、繰り返し練習による演習形式で教授する。英語で研究成果を報告・議論するときの上手な話し方、聞き方について学び、国際的競争力を高めるための基礎技術を修得させる。英文ポスターの特徴と構成、表現法とスキルについて専門英語を学ぶ観点から重点的に教授する。看護学領域、理学療法学・作業療法学領域、放射線技術学領域、並びにこれらの関連領域における代表的な研究課題例を用い、英語を聴く・伝えるという観点から、上手な口頭発表の仕方、英語による Q&A の対応の仕方などについて、国際会議への参加を模擬する形式で教授する。英語による表現力や交渉力の涵養に役立つ内容である。</p> <p>(★ D. ニューバリー、内田敦子教授)</p>

【 保健医療医科学連携科目 】

授 業 科 目 名	講義等の内容
生活支援学特講	<p>人間の生活を形成し健康問題に影響を及ぼす環境との関わりを理解し、生活支援における看護学と関連する学問および技術について教授する。高齢者や障害者（児）への生活支援は、生活障害の特徴を理解するとともに、主体性をもって自己の生活課題を克服する過程を支援するものである。生活する人々の意思に基づく制度的な生活支援体制、生活支援の価値・知識・方法の論理性、生活支援の学際的な広がり理論・実践の両面から統合していけるように教授する。</p> <p>（★藤岡寛教授、山口忍教授、水上昌文教授、富田和秀教授、齋藤さわ子教授、堀田和司教授）</p>
リハビリテーション学特講	<p>リハビリテーションの視点から、機能障害の評価・治療、障害予防、介護予防、在宅リハビリテーション、障害者の社会参加の支援および介護者の生活の質（QOL）までの広範囲な内容を教授する。</p> <p>（★松元秀次教授、上岡裕美子教授、吉良淳子教授、山口忍教授、藤田好彦准教授、若山修一准教授）</p>
機能回復神経学特講	<p>本科目では神経系に由来する運動障害や感覚障害をニューロサイエンスの視点からとらえ、神経科学を基盤として神経系障害機能回復の科学的根拠と可能性を追究する。機能回復評価学・治療学として機能障害の中樞神経系の障害に対する基本的理解、病態、評価、治療、リハビリテーションについての基礎的研究基盤とその方法論について教授する他、機能回復の背景となる生命科学の研究成果の背景について、理解を深める。また、機能回復の対象となる中樞神経系の障害をきたす各種疾患の病態の理解を深める他、治療体系の中におけるリハビリテーションの位置づけと、最近の研究についても教授する。</p> <p>（★河野豊教授、角友起准教授）</p>
病態解析診断学特講	<p>放射線画像などによる画像診断法はあらゆる医療分野における病態把握と診断の根拠を提供し、その基本的知識の理解は、リハビリテーション学や機能回復神経学などへの応用に留まらず、保健医療科学を理解するための土台を提供する。画像の解析には、撮影する放射線技術科学的側面と、被写体である生体の正常と病態および構造と機能に関する生命医科学的側面の総合的理解が重要である。本特講では、サブテーマを生活習慣病（悪性腫瘍を含む）とその臓器合併症とし、特に腎・心・脳疾患の微小循環や微小環境における代謝・機能・形態などの病態を、病理学、生化学、分子生物学や病態解析制御学の見地から解説する。関連する画像（イメージング）における放射線技術科学と、生命医科学との学際領域における先端的新知見を展望する。</p> <p>（★馬場健教授、門間正彦教授、石森佳幸准教授、鹿野直人准教授）</p>

【 保健医療医科学専門科目 】

授 業 科 目 名	講義等の内容
看護学特講	<p>人々の健康維持・増進とQOLの向上にかかわる看護の各領域から、最新の看護の課題および課題解決の方法論である理論および方法・技術について教授する。広く看護をとらえることから看護実践への応用、研究との関連について教授する。</p> <p>(★中村博文教授、山口忍教授、藤岡寛教授、富田美加教授)</p>
看護学特講演習Ⅰ	<p>広い視野を持って対象の健康の維持・増進およびQOLを向上させるために、事象の関係性や関連要因の分析、環境との関係性など看護学特講で獲得した知識・理論を活用し、専門分野における看護実践を発展させるケア開発及びシステム構築について教授する。特講演習Ⅰでは、コア概念として、人と看護のあり方を環境や社会的側面、ライフサイクル、個別および集団へのアプローチに関して、最新のエビデンスから探求し、多角的に分析および統合発展させる考え方、方法を教授する。これらを通じて、学生の興味と関心および専門性を踏まえて、各看護学分野から新たな視点および深さを投げかけ、学生の課題をさらに深めることになる。</p> <p>(★山波真理教授、山口忍教授、中村博文教授、藤岡寛教授、富田美加教授、吉良淳子教授、田口典子教授)</p>
看護学特講演習Ⅱ	<p>特講演習Ⅱは、学生各自の持つ課題の専門的理解を深め、研究の構想、枠組みの深化と具体化ができるように教授する。そのためには、学生の課題にいつそう特化した2名の教員と、課題の背景、コア概念を統合させる。かつ、フィールドワーク(参加観察)を取り入れ、理論生成と現象理解をフィードバックしながら、帰納的・演繹的双方の思考力を養い、研究課題と方法論の修練を行う。</p> <p>(★山波真理教授、山口忍教授、中村博文教授、藤岡寛教授、富田美加教授、吉良淳子教授、田口典子教授)</p>
生活支援学特講演習	<p>健康問題に影響を及ぼす環境との関わり、生活支援における看護学および関連する学問の技術、生活障害の特徴、生活課題を克服する過程への支援など、生活支援学特講で獲得した知識・理論を活用し、生活支援の理論と実践とが統合していけるように教授する。</p> <p>(★山口忍教授、水上昌文教授、富田和秀教授、齋藤さわ子教授、藤岡寛教授、堀田和司教授)</p>

授 業 科 目 名	講義等の内容
理学療法学特講	<p>基礎医学、医科学、社会学、社会福祉学などの学問分野と理学療法研究との関連性について教授する。また教員の提示した内容やテーマに対し学生間で活発な意見交換を行い授業を進行する。</p> <p>理学療法に近接する学問分野との学際的研究の在り方や、それら各学問分野における理学療法研究の位置づけ、独自性について理解する。</p> <p>(★富田和秀教授、水上昌文教授、浅川育世教授、滝澤恵美教授、橘香織准教授、松田智行准教授、篠崎真枝准教授、青山敏之准教授)</p>
理学療法学特講演習	<p>本授業は提示されたテーマについて学生間で考え論議することが主体である。現在行っている研究を学際的研究としての関連性から捉え研究の視野を広げる。理学療法に近接する学問分野との学際的研究の在り方や、理学療法研究の独自性、位置づけについて理解する。</p> <p>(★水上昌文教授、富田和秀教授、上岡裕美子教授、浅川育世教授、滝澤恵美教授、松田智行准教授、橘香織准教授、青山敏之准教授、篠崎真枝准教授)</p>
リハビリテーション学特講演習	<p>リハビリテーションの視点から、機能障害の評価・治療、障害予防、介護予防、在宅リハビリテーション、障害者の社会参加の支援および介護者の生活の質(QOL)に関する実践的内容を教授する。</p> <p>(★六崎裕高教授、岩井浩一非常勤講師、上岡裕美子教授、山口忍教授、吉良淳子教授、藤田好彦准教授、若山修一准教授)</p>
作業療法学特講	<p>作業療法において個人の生活に関わる活動(つまり「作業」)が効果的に遂行できる支援には、多角的な側面を考慮することが不可欠である。本授業では、学生の興味のある作業そのものあるいはその作業に関わる側面について、現象の捉え方、関連する側面の相互作用、身体的・精神的健康に与える影響を含め、多角的に捉え分析する思考や各側面を統合・発展させる考え方を教授する。</p> <p>(★白石英樹教授、齋藤さわ子教授、堀田和司教授、藤田好彦准教授、村木敏明非常勤講師、吉田直樹非常勤講師、浅羽エリック非常勤講師)</p>

授 業 科 目 名	講義等の内容
作業療法学特講演習	<p>作業療法学特講演習では、同特講を修了し、個人の生活に関わる活動（つまり「作業」）の可能化あるいは治療的応用に関して深めるため、学生が希望するテーマを下記の中から2つ選択し、学生の興味の幅と専門性をさらに深めるためテーマに精通した教員が授業を担い教授する。＊シラバスの授業計画には、例示の一部を示す（学生が「作業の意味と健康」と「作業の形態・機能と健康」を選択した場合）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の意味と健康（浅羽） ・ 作業の形態・機能と健康（齋藤） ・ 活動と高齢者の健康（堀田） ・ 活動と心理的・生理的・身体的反応（藤田） ・ 活動と身体機能（白石） ・ 活動の可能化とリハビリテーション工学の応用（吉田） <p>（★齋藤さわ子教授、白石英樹教授、堀田和司教授、藤田好彦准教授、村木敏明非常勤講師、吉田直樹非常勤講師、浅羽エリック非常勤講師）</p>
機能回復神経科学特講演習	<p>本科目では神経系に由来する運動障害や感覚障害をニューロサイエンスの視点からとらえ、神経科学を基盤として神経系障害機能回復の科学的根拠と可能性を迫及する。</p> <p>中枢神経系疾患に関する解剖生理、病態、評価、治療、リハビリテーションについての基礎的知識と今後の治療の展望について教授する。特に機能回復の背景となる生命科学や神経生理学などの研究成果については最新の論文を精読しながら理解を深めていく。</p> <p>（★河野豊教授、角友起准教授）</p>
放射線技術科学特講	<p>放射線技術科学領域に導入される新しい科学技術は、相互に関わりあうことで医療画像、核医学、放射線治療の各システムの性能を飛躍的に向上させることができる。</p> <p>例えば、シンクロトロン放射光によるX線位相撮影では、従来法では描写が難しい小さな乳がんや肺がんなどを鮮明に描写できる。また、画像のウェーブレット解析により、ガン病巣の浸潤領域の精密解析が可能である。これらの新技術を放射線治療計画、重粒子線CT法、高精度放射線治療法などに応用すれば、放射線治療の効果は飛躍的に向上するであろう。さらに、X線撮影や放射線治療で用いた放射線量の精密測定とその生物学的評価などを、患者個人の医療情報として電子カルテシステムで一元的に管理すれば、患者に対して質的にも経済的にも効率的な良い医療の提供ができる。この講義では、新しい科学技術が相互に関わりあうことによる放射線技術科学の新しい展開を中心に教授する。</p> <p>（★阿部慎司教授、森浩一教授、藤崎達也教授、須田匡也准教授、倉本尚美准教授、布施拓講師、兵藤一行非常勤講師、野村行弘非常勤講師、齋藤秀敏非常勤講師）</p>

授 業 科 目 名	講義等の内容
放射線技術科学特講演習	<p>放射線技術科学領域に導入される新しい科学技術は、相互に関わりあうことで医療画像、核医学、放射線治療の各システムの性能を飛躍的に向上させることができる。放射線技術科学特講演習では、放射線技術科特講で得た知識を基に放射線技術科学の発展・今後の展開について、学生の研究課題との関わりの深いテーマにより2名の教員が論文読解、課題論文学習により教授する。各学生が検索した論文の紹介やその精読も適時行う。(シラバスには履修者が医用画像学について興味があることを前提とした場合について、2名の教員による教授例として示す。)</p> <p>(★阿部慎司教授、森浩一教授、藤崎達也教授、須田匡也准教授、布施拓講師、兵藤一行非常勤講師、野村行弘非常勤講師、齋藤秀敏非常勤講師)</p>
病態解析診断学特講演習	<p>放射線画像などによる画像診断法はあらゆる医療分野における病態把握と診断の根拠を提供し、その基本的知識の理解は、リハビリテーション学や機能回復神経科学などへの応用に留まらず、保健医療科学を理解するための土台を提供する。画像の解析には、撮影する放射線技術科学的側面と、被写体である生体の正常と病態および構造と機能に関する生命医科学的側面・医学的側面の総合的理解が重要である。本特講では、サブテーマを生活習慣病（悪性腫瘍を含む）と臓器合併症とし、国内外の学術論文講読を科学的、批判的に行い、生活習慣病を構成する生体側の諸要因と放射線医科学との関連を分析する。さらに、微小循環障害と臓器障害との関係や、病態・画像等診断・治療・予後との相互関係について、論文報告例や付属病院症例を対象とした考察を行う。関連する放射線技術科学と生命医科学との学際領域における先端的新知見へと展望を広げる。</p> <p>(★馬場健教授、門間正彦教授、石森佳幸准教授、鹿野直人准教授)</p>

授 業 科 目 名	講義等の内容
医学物理臨床実習	<p>放射線治療分野の on-the-job training (OJT) を通して、医学物理士として必要な臨床実習を行う。臨床現場における解析手法や技術を習得し、それらを臨床業務や研究業務に活用・応用できるようにするとともに、学生自身で臨床における課題を探求・調査し、解決する手法を習得する。</p> <p>実習は次の内容を、関連・連携施設で実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 放射線治療基礎 (2) 線量計算・線量測定 (3) 密封小線源治療 (4) 単純な外部照射治療計画 (5) IMRT を含む複雑な外部照射治療計画 (6) 粒子線治療 (7) 照射録チェック (8) 治療装置、治療計画装置受け入れ検査、コミッショニング (9) 臨床に関わる研究プロジェクトまたは新しい治療法の立ち上げプロジェクト <p>上記について、各々の修得状況に応じて実習（2年間）を実施する。</p> <p>（★藤崎達也教授、布施拓講師、宮川真助教）</p>

【 共通科目 】

授 業 科 目 名	講義等の内容
医療教育学特論	<p>理学療法士・作業療法士が医療専門職として修得しているべき知識・技能を考え、そこに至る過程を考えることにより、学内教育および臨床実習教育が備えるべき教育内容に関する理解を深める。同時に、診療参加型臨床実習の理念と方法を学び、学内教育と新任教育を如何に連続させるかについて学修する。</p> <p>この科目では、理学療法士・作業療法士が修得しているべき知識・技能の提案と必要な新任教育の方法と内容、理学療法士・作業療法士教育カリキュラムの変遷、現状と課題に加え、学内教育で教授すべき内容を教授する。</p> <p>また、臨床実習前学内教育における到達目標および臨床実習における到達目標を提案と診療参加型臨床実習の理念と方法について学修すると共にハラスメントの概念を理解し、防止方法を学修し、学校教育および新任教育に携わる理学療法士・作業療法士の育成に繋げる科目である。</p> <p>(★堀田和司教授、浅川育世教授、白石英樹教授、松田智行准教授、藤田好彦准教授、若山修一准教授、篠崎真枝准教授、唯根弘助教)</p>
医療と教育論	<p>医療従事者の養成に必要な教育学に関する諸理論や概念を学修するとともに、現代の若者の心理的特徴を理解し、教育心理学に基づいた適切な指導の方法について学ぶ。さらに、医療専門職の教育に特化した専門教育の方法を実践する能力を身に着ける。</p> <p>(★佐藤純教授、立石新治非常勤講師、前野貴美非常勤講師)</p>

【 保健医療医科学専門科目 】

授 業 科 目 名	講義等の内容
特別研究	<p>課題の解明に最も適した指導教員、並びに副指導教員の指導の下に、選定した研究課題について研究計画を立案し、その計画に従い研究を実施、研究成果を博士論文として作成する。“自主的な文献調査とその解釈、現状調査等を進め先行研究を分析し、研究計画の立案、データの収集・整理・解析、結果等の評価ができる基礎的能力”をさらに発展させる。エビデンス（科学的根拠）に基づく実践および臨床で生じている現象の解明や新たな技術開発という実践的な研究課題、並びにそれらの理論的基盤となる研究課題について以下の能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自性の高い研究課題が設定できること ・ 科学的な方法に基づきデータの収集、解析、分析および評価ができること ・ 専門分野のみならず、関連する分野（学際分野）において、独自にもしくは共同で研究を進められること ・ 筆頭著者として研究成果を原著論文として投稿し査読者と意見交換ができること ・ 研究成果に関して国内・外の研究者と議論できること <p>これらにより、倫理性、論理性、表現力、批判力を備えた臨床研究者を育成する。ここで養われた問題解決能力は、臨床現場におけるスタッフの指導や業務の質的改善に関するリーダーシップにも反映されることが期待できる。科学的思考に基づく指導力は、大学・大学院等における教育や臨床研究者として、後継者指導にも生かされるものである。</p>

【博士後期課程】

指導教員と研究概要

指導教員と研究概要（看護学領域）その1

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 高村 祐子 takamura@ipu.ac.jp	老年看護学領域における臨床実践に関する研究	1. Jounko Kameyama, Yumi Hashizume, Yuko Takamura, Shoko Nomura Tomoki Gomi, Hisako Yanagi Work engagement, well-being, and intent to continue working based on educational support among foreign care workers in Japan Environmental Health and Preventive Medicine 2022;27:1-9 2. Michihiro Kawano, Yuko Takamura, Michiko Tachihara, Kotomi Yokota, Arito Yozu The Relationship between Motivation for Rehabilitation and Sense of Agency in Patients with Cerebrovascular Disease, and Nurse Support for Patient Agency International Journal of Affective Engineering 2021;20(31):43-51 3. 高村祐子, 軽部由有子. 看護系大学の2020年度卒業年次生が修得したと認識する専門的能力—2017年度卒業年次生との比較—. 茨城県立医療大学紀要 2023 ; 28 : 39-48
	老年看護学教育に関する研究	
教授 富田 美加 tomitam@ipu.ac.jp	看護における学術情報の探索及び活用に関する研究	1. Tomita M, et al. The Analysis of Medical Adverse Events Related to Electronic Health Records in Nursing Services. Studies in health technology and informatics. 2017;245:1340. 2. 富田美加. 茨城県立医療大学に関する資料の収集における大学アーカイブ構築上の課題. 茨城県立医療大学紀要, 19, 2014 ; 45-53.
	看護学におけるアーカイブズに関する研究	
教授 中村 博文 nakamurahir@ipu.ac.jp	統合失調症患者の地域生活におけるQOLに関する研究	1. Hirofumi N, et al. Structural equation model of factors related to quality of life for community-dwelling schizophrenic patients in Japan. International Journal of Mental Health Systems. 2014, 8:32. doi:10.1186/1752-4458-8-32
	精神看護学教育における効果的な学習方法に関する研究	2. 中村博文, 糸嶺一郎, 藤岡寛, 加納尚美. イリノイ州立大学大学院における高度実践看護学教育の実際—本学大学院看護学専攻の課題と展望—, 茨城県立医療大学紀要, 2019 ; 24 : 111-118
	精神障がい者の社会復帰・社会参加に関する研究	3. 中村 博文, 渡辺 尚子. 地域で生活する統合失調症患者におけるresilienceの要因についての質的分析. 均衛生生活学, 2023 ; 13(1) : 1-8
教授 藤岡 寛 fujioakah@ipu.ac.jp	多重課題を抱える家族への看護実践	1. 藤岡寛, 涌水理恵, 柴原雛子, 市川睦, 岩崎信明. 在宅で重症心身障害児を養育する家族と医療スタッフに向けた家族エンバロメント啓発パンフレット作成の試み. 茨城県立医療大学紀要 2022 ; 27 : 81-92
	障害児をもつ家族の共同育児（コペアレンティング）に向けた支援	2. 藤岡寛, 涌水理恵, 西垣佳織, 松澤明美, 岸野 美由紀. 学齢在宅重症心身障害児の主養育者とその配偶者それぞれのQOLとその関連要因. 日本重症心身障害者学会誌 2019 ; 44(1) : 169-176
	家族に対する支援プログラムの開発と評価	3. 藤岡寛, 田中陽子, 涌水理恵. The Parenting and Family Adjustment Scale(PAFAS)およびThe Child Adjustment and Parent Efficacy Scale(CAPES)の日本語版作成の試み. 厚生学 2016 ; 63(15) : 20-28
教授 山口 忍 yamaguchis@ipu.ac.jp	保健師の専門能力開発としての人材育成に関する研究	1. 中島富志子, 山口忍, 大竹美記, 長澤ゆかり, 齊藤瑛梨, 綾部明江保健師のキャリアラダーが示す地域組活動支援の具体的要素茨城県立医療大学紀要2021 ; 26 : 25-35
	地域生活者の健康向上に向けた保健師の支援	2. 大江佳織, 市村久美子, 山口忍定年退職移行期における勤労者の健康とその関連要因ヘルスプロモーションリサーチ 11巻1号 2018 ; 19-27
	ソーシャルキャピタルとしての地域組織活動に関する研究	3. 長澤ゆかり, 山口忍, 綾部明江, 鶴見三代子市町村における精神障がい者支援活動—8地方別活動状況—厚生学 2016 ; 63 (12) : 1-6
教授 山波 真理 yamanamim@ipu.ac.jp	産後のヘルスプロモーションに関する研究	1. Mari Yamanami, Naomi Kano, Development of a health behavior model for females with a history of gestational diabetes to promote healthy dietary habits and glucose tolerance testing. International Journal of Nursing and Midwifery, 2023;15(2):16-30
	母性看護学教育に関する研究	2. 山波真理, 家吉望み, 加納尚美. 妊娠糖尿病既往女性の健康行動の構成要素—食生活と耐糖能検査の受検に焦点をあてて—, 母性衛生, 2023 ; 64(1) : 51-59
	助産師の臨床実践に関する研究	3. 小野加奈子, 山波真理, 加納尚美. 母性看護学実習における看護学生の学び—正統的周辺参加の視点から—, 日本看護科学学会誌, 2022 ; 42 : 222-230
准教授 笠井 久美 kasaik@ipu.ac.jp	疾患や障害のある子ども～成人に対する性教育についての研究	1. Kasai K., Unno T., Fujioka H. Sex Education Needs of Japanese People with Spina Bifida: Relation to Participants' Demographics, Sexuality and Disability, 2022; 40(4): 807-818. 2. 笠井久美, 道木恭子. 二分脊椎男性の親へのインタビュー調査—セクシュアリティに関する親の思いとかわり—, 思春期学, 2019;37(3) : 285-291.
	疾患や障害のある親の育児支援および疾患や障害のある子どもの親の育児支援に関する研究	3. 笠井久美. 学童期の脳性麻痺児を育てる親の「しつけ」に関する質的研究—「しつけ」方針と内容—, 茨城県立医療大学紀要, 2017;22: 45-54.
准教授 渡辺 忍 watanabeshino@ipu.ac.jp	医療・介護サービス間の連携に関する研究	1. Shinobu Watanabe, Tomoko Ito, Takehiro Sugiyama, Makiko Tomita, Shu Kobayashi, Nanako Tamiya : Current conditions of use of long-term care insurance services for home-based long-term care recipients who need insulin therapy. Geriatrics and Gerontology International. 2023;23(3) :253-255.
	要介護高齢者の医療的ケアに関する研究	2. 渡辺忍. 介護支援専門員の情報把握の実態と関連要因 : 在宅でインスリン療法を行う要介護者のケアマネジメントに焦点をあてて. 日本在宅ケア学会誌, 2022;25(2) :143-154.
	介護サービスで働く看護職に関する研究	3. 渡辺忍, 柴山大賀. 在宅でインスリン療法を行う要介護者支援のために看護師が介護支援専門員と共にすべき最重要情報項目. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 2021;25(1) :23-31.

指導教員と研究概要（看護学領域） その2

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 河野 了 kawanosa@ipu.ac.jp	循環器病患者の治療、臨床に関する研究	1. Ogawa Y, Shimojo N, Ishii A, Tamaoka A, Kawano S, Inoue Y. Reduced CSF orexin levels in rats and patients with systemic inflammation: a preliminary study. BMC Res 25, pp221. doi:10.1186/s13104-022-06121-0. 2022
	敗血症の病態と治療方法に関する分子生物学的検討	2. Matsuishi Y, Mathis BJ, Hoshino H, Enomoto Y, Shimojo N, Kawano S, Sakuramoto H, Inoue Y. PERSONality, Ethical, and PROFESSIONal quality of life in Pediatric/Adult Intensive Nurses study: PERSEPRO PAIN study. PLoS One 7:17, e0259721, doi: 10.1371. 2021
	回復期リハビリテーション病院における総合診療の役割の検討	3. Ito H, Ogawa Y, Shimojo N, Kawano S. Suborexant Poisoning in a Patient with Cirrhosis and Renal Failure. Cureus. 13, e14329. doi: 10.7759/cureus.14329. 2021
教授 桜井 直美 sakurai@ipu.ac.jp	地域における耐性菌サーベイランス	1. Kurita J, Uematsu T, Sakurai N, Sugawara T, Ohkusa Y, Yamaguchi N. Attenuation of antibody titer of measles and rubella virus among university students of department of healthcare providers during 2015-2018 in Japan. Vaccine 39(30) 4203-4209, 2021.
	保健・医療・福祉の連携における地域包括的な感染予防対策	2. Nohara M, Sugawara T, Kurita J, akurai N, Umezawa M, Nagata N, Ohkusa Y. Study Elucidating Disinfection at Nursery Schools in Ibaraki, Japan. Biocontrol science 26(1) 37-41, 2021.
		3. Futagawa-Saito K, Ba-Thein W, Higuchi T, Sakurai N, Fukuyasu T. Nationwide molecular surveillance of exfoliative toxigenic Staphylococcus hyicus on pig farms across Japan. Veterinary microbiology 124(3-4) 370-4, 2007.
教授 田口 典子 taguchino@ipu.ac.jp	マウスにおける蘇生後脳症モデルで記憶障害を生じる心停止時間の検討	1. Nakayama S, Taguchi N, Isaka Y, Nakamura T, Tanaka M: Glibenclamide and Therapeutic Hypothermia Have Comparable Effect on Attenuating Global Cerebral Edema Following Experimental Cardiac Arrest. Neurocrit Care. 2018 Aug; 29(1):119-127.
	加齢が術後認知機能に与える経時的変化の解明とその予防について	2. Nakayama S, Taguchi N, Tanaka M: The Role of Cranial Temperature in Neuroprotection by Sodium Hydrogen Sulfide After Cardiac Arrest in Mice. Therapeutic Hypothermia and Temperature Management 12 Feb 2018https://doi.org/10.1089/ther.2017.0054
		3. Taguchi N, Nakayama S, Tanaka M: Single administration of soluble epoxide hydrolase inhibitor suppresses neuroinflammation and improves neuronal damage after cardiac arrest in mice. Neuroscience Research doi: 10.1016/j.neures.2016 [Epub ahead of print]
教授 佐藤 純 satouj@ipu.ac.jp	援助要請・自己援助志向性に関する研究	1. 水野 雅之・菅原 大地・谷 秀次郎・吹谷 和代・佐藤 純 2021 若手の理学療法士・作業療法士のバーンアウト傾向とセルフ・コンパッションの関連 心理学研究, 92, 197-203.
	青年期のキャリア発達過程に関する研究	2. 軽部雄輝・佐藤純・杉江征 2015 大学生の就職活動維持過程尺度の作成 教育心理学研究, 63, 386-400.
	死の自己決定に関する研究	
准教授 倉本 尚美 kuramotona@ipu.ac.jp	[摂食嚥下障害] 嚥下音に基づく嚥下機能の定量的評価	1. Kuramoto N, Ichimura K, Jayatilake D, Shimokakimoto T, Hidaka K, Suzuki K. Deep Learning-Based Swallowing Monitor for Realtime Detection of Swallow Duration. Proc. of Annu Int Conf IEEE Eng Med Biol Soc. 2020, 4365-4368.
	[摂食嚥下障害] 嚥下時の姿勢支援をめざした頸部角度の動体解析	2. Kuramoto N, Nakahira M, Teramoto Y, Kadone H, Ichimura K, Jayatilake D, Shimokakimoto T, Hidaka K, Hyodo M, Suzuki K. Stabilometric Analysis of Neck Orientations during Mealtime by a Wearable Device for Dysphagia Patients. Proc. of 43rd Ann Int Conf of the IEEE Eng Med Biol Soc. (EMBC), 2021, 7144-7147.
	自閉症スペクトラム児の偏食支援にむけた質的調査	3. 倉本尚美、鈴木健嗣、渡辺忍、日高紀久江. 特別支援学校における食事指導の実態調査. 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(千葉). 2017年9月15日～16日.
准教授 中山 純子 nakayama@ipu.ac.jp	小児けいれん性疾患における遺伝学的研究	1. Nakayama J et al. Significant evidence for linkage of febrile seizures to chromosome 5q14-q15. Hum Mol Genet 2000;9:87-91
	小児遺伝性疾患患者に対するリハビリテーションの研究	2. Nakayama J et al. A nonsense mutation of the MASS1 gene in a family with febrile and afebrile seizures. Ann Neurol 2002;52:654-657
		3. Nakayama J et al. A Japanese case of ichthyosis follicularis with atrichia and photophobia syndrome with an MBTPS2 mutation. 2011;56:250-252
		4. Nakayama J et al. Monozygotic twins with de novo ZIC2 gene mutations discordant for the type of holoprosencephaly. Neurology 2016;86:1456-1458

指導教員と研究概要（理学療法領域） その1

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 浅川 育世 asakaway@ipu.ac.jp	活動や参加の新たな指標開発に関する研究 理学療法介入における活動や参加への寄与に関する量的・質的研究 脳卒中等疾患の障害の構造分析に関する研究	1. YASUTSUGU ASAKAWA, SHIGERU USUDA, MASAFUMI MIZUKAMI, SHIGEYUKI IMURA. Moderator and Mediator effects of personal factors in patients with stroke. Journal of Physical Therapy Science 2009 21(1):55-63 2. 浅川育世, 佐野岳. 総合事業等で参加を評価するために必要な項目の検討. 理学療法学 2018; 45(4): 263-269 3. 浅川育世, 小貫葉子, 前沢孝之, 佐野岳, 斎藤由香, 内田智子. 中高年者を対象とした国際生活機能分類の参加に該当する項目の重要度についての調査. 理学療法学 2017;44(1):56-65
教授 上岡 裕美子 ykamioka@ipu.ac.jp	訪問リハビリテーションの効果検証に関する研究 訪問・通所リハビリテーションにおけるSMARTgoal共有とGoal Attainment Scalingの有効性の検証 理学療法教育における客観的臨床能力試験(OSCE)実施方法の確立	1. Kamioka Y, Miura Y, Matuda T, Iijima Y, Suzyki A, Makazato K, Saito H. Aritas Mchanges in social participation and life-space mobility in newly enrolled home-based rehabilitation esers over 6 months. Journal of Physical Therapy Science.2020, 32:375-384. 2. 上岡裕美子, 斎藤秀之, 飯島弥生, 細田忠博, 松田智行, 三浦祐司, 有田元英, 伊佐地隆, 小関地. 訪問リハビリテーションにおける日常生活活動と生活空間の向上に関連する要因の検討-茨城県内多施設共同調査より-. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 2013, 50:831-839. 3. 上岡裕美子, 篠崎真枝, 橋香織, 山本哲, 宮田一弘, 青山敏之, 富田美加. 理学療法学生における実習前客観的臨床能力試験(OSCE)と臨床参加型実習到達度との関連性. 医学教育. 2021, 52:97-101
教授 滝澤 恵美 takizawa@ipu.ac.jp	身体活動あるいは生活環境と子どもの心身発達に関する研究 加齢に伴う歩行運動パターンの変化と自己調整に関する研究 解剖学的視点に基づく筋骨格系の機能特性に関する研究	1. 滝澤恵美, 小林育斗, 川村紗世, 岩井浩一. 児童におけるしゃがみ動作の不可および関節協調性に関連する要因. 理学療法学. 2019, 46:225-232. 2. 滝澤恵美, 岩井浩一, 伊東元. 地域在住高齢者における歩行の加齢変化にみる自己調整-8年にわたる縦断研究から-. 理学療法科学. 2020, 35:557-563. 3. Takizawa, M., Suzuki, D., Ito, H., Fujimiya, M., Uchiyama, E. Why adductor magnus muscle is large: the function based on muscle morphology in cadavers. Scandinavian journal of medicine & science in sports. 2014, 24: 197-203
教授 富田 和秀 tomitak@ipu.ac.jp	随意呼吸のフィードバック制御を用いた新たな呼吸リハビリテーションの開発 脊髄損傷者の呼吸運動回復機序と呼吸リハビリテーション 脊髄再生医療を念頭にいた呼吸リハビリテーションの基礎的研究	1. Ishii N, Tomita K, Takeshima K, Kawamura K, Setaka Y, Yoshida R, Imura S. Effects of visual feedback of thoracoabdominal motion on oxygen consumption during hyperventilation - Pilot study. Journal of bodywork and movement therapies. 2021, 28, 317-322. 2. Ishii N, Tomita K, Kawamura K, Setaka Y, Yoshida R, Takeshima R. Effects of breathing control using visual feedback of thoracoabdominal movement on aerobic exercise. Respiratory Physiology & Neurobiology. 2022, 301(in print). 3. Yoshida R, Tomita K, Kawamura K, Setaka Y, Ishii N, Monma M, Mutsuzaki H, Mizukami M, Ohse H, Imura S. Investigation of inspiratory intercostal muscle activity in patients with spinal cord injury: a pilot study using electromyography, ultrasonography, and respiratory inductance plethysmography. Journal of physical therapy science. 2021, 33(2), 153-157.
教授 水上 昌文 mizukami@ipu.ac.jp	脊髄損傷者の機能評価に関する研究 不全頸髄損傷者の理学療法体系に関する研究 ロボットリハビリテーションにおける介入効果に関する研究	1. 佐藤 弘樹, 吉川 憲一, 宮田 一弘, 佐野 歩, 水上 昌文. 脊髄損傷者を対象とした体幹機能評価尺度(Trunk Assessment Scale For Spinal Cord Injury TASS)の開発と信頼性の検証. 理学療法学48巻3号, 2021年6月 Page321-329. 2. Masafumi Mizukami, Kenichi Yoshikawa, Hiroaki Kawamoto, AyumuSano, Kazunori Koseki, Yasutsugu Asakawa, Koji Iwamoto, Hiroshi Nagata, Hideo Tsurushima, Kei Nakai, Aiki Marushima, Yoshiyuki Sankai & Akira Matsumura, Gait training of subacute stroke patients using a hybrid assistive limb: a pilot study. Disabil Rehabil Assist Technol. 2016 Mar 26;1-8. 3. Takahashi K, Mutsuzaki H, Mataka Y, Yoshikawa K, Matsuda M, Enomoto K, Sano K, Kubota A, Mizukami M, Iwasaki N, Yamazaki M. Safety and immediate effect of gait training using a Hybrid Assistive Limb in patients with cerebral palsy. J Phys Ther Sci. 2018; 30(8): 1009-1013. doi: 10.1589/jpts.30.1009. Epub 2018 Jul 24.
准教授 青山 敏之 aoyamato@ipu.ac.jp	非侵襲的脳刺激法を用いたヒト運動制御や運動学習に関する基礎的研究 動作筋電図やDecomposition法を用いた基礎研究と各種疾患の病態解明を目的とした臨床的研究 VR技術を応用した運動錯覚による介入研究	1. Toshiyuki Aoyama, Kazumichi Ae, Hiroto Souma, Kazuhiro Miyata, Kazuhiro Kajita, Takashi Kawamura, Koichi Iwai. Difference in Personality Traits and Symptom Intensity According to the Trigger-Based Classification of Throwing Yips in Baseball Players. Frontiers in sports and active living 3. 652792, 2021 2. Toshiyuki Aoyama, Atsushi Kanazawa, Yutaka Kohno, Shinya Watanabe, Kazuhide Tomita, Fuminari Kaneko. Influence of Visual Stimulation-Induced Passive Reproduction of Motor Images in the Brain on Motor Paralysis After Stroke. Frontiers in human neuroscience 15. 674139, 2021 3. Toshiyuki Aoyama, Fuminari Kaneko, Yukari Ohashi, Yutaka Kohno. Dissociation between cortical and spinal excitability of the antagonist muscle during combined motor imagery and action observation. Scientific Reports 9(1) 2019
准教授 篠崎 真枝 shinozaki@ipu.ac.jp	リハビリテーション専門職の臨床教育に関する研究 理学療法教育における教育技法・方略の検証	1. Masae Shinozaki, Takashi Fukaya, Yasutsugu Asakawa, Yukari Ohashi. A Questionnaire Survey of Difficulties in Clinical Practice Perceived by Physical Therapy Students. J. Phys. Ther. Sci. 2020, 32, 856-863 2. 篠崎真枝, 浅川育世, 大橋ゆかり. 継続したPBLディュートリアル教育による効果の検討. 理学療法科学. 2016, 31(6), 819-827. 3. 篠崎真枝, 浅川育世, 大橋ゆかり. 臨床実習指導者の感じる指導上の困難ならびに効果的な指導方法の検討. 理学療法科学. 2018, 33(4), 659-667.
准教授 橋 香織 tachibana@ipu.ac.jp	バラスポーツ、特に車いすスポーツのクラス分けに関する研究 車いすスポーツ参加者のスポーツ傷害予防及びリハビリテーションに関する研究 バラスポーツ、特に車いすスポーツの競技力向上に関する研究	1. Tachibana K, Mutsuzaki H, Shimizu Y, Doi T, Hotta K, Wadano Y. Influence of Functional Classification on Skill Tests in Elite Female Wheelchair Basketball Athletes. Medicina (Kaunas) 2019; 55(11): pii : E740 2. 橋香織, 水上昌文, 和田野安良. 車椅子バスケットボール競技における慢性関節痛の発生状況. 茨城県立医療大学紀要. 2010;15:26-33 3. 橋香織, 六崎裕高, 清水如代, 四津有人, 土肥崇史, 和田野安良. Time Motion分析を用いた車いすバスケットボール女子の試合中の運動率の検討. 茨城県立医療大学紀要. 2020;25:13-20.
准教授 松田 智行 matsudato@ipu.ac.jp	介護保険制度における理学療法サービス 医療制度（特に難病法）における理学療法サービス 地域包括ケアシステムにおけるサービス提供体制の検証	1. Tomoyuki Matsuda, Masao Iwagami, Toshiki Suzuki, Xueying Jin, Taeko Watanabe, Nanako Tamiya. Correlation between the Barthel Index and care need levels in the Japanese long-term care insurance system. Geriatric Gerontology international. 2019, 19, 1186-1187. 2. 松田 智行, 田宮 菜奈子, 柏木 聖代, 森山 葉子. 介護保険制度導入前後における在宅サービス利用の変化. 日本公衆衛生雑誌. 2013, 60(9), 586-595
助教 瀬高 裕佳子 okunoyu@ipu.ac.jp	生理学的見地からみた呼吸リハビリテーションの検証 咳嗽機能向上に向けたケア/リハプログラムに関する研究 茨城県内における呼吸リハビリテーションの実態調査および地域連携の構築に関する研究	1. Setaka Y, Takao T, Kawamura K, Watanabe K, Yoshida R, Ohse H, Tomita K. Reliability of voluntary cough assessment using respiratory flow waveform. The Journal of Physical Therapy Science. 2020; 32: 454-458. 2. Okuno(Setaka) Y, Takahashi R, Sewa Y, Ohse H, Imura S, Tomita K. Functional electrical stimulation to the abdominal wall muscles synchronized with the expiratory flow does not include muscle fatigue. The Journal of Physical Therapy Science. 2017;29: 484-486.
助教 宮田 一弘 miyata@ipu.ac.jp	臨床評価尺度の尺度特性に関する研究 臨床的に意義のある最小変化量(MIC)を推定する研究 予測モデルの開発・検証	1. Miyata K, Hasegawa S, Iwamoto H, Otani T, Kaizu Y, Shinohara T, Usuda S. Rasch validation and comparison of the Mini-BESTest and S-BESTest in patients with stroke. Physical Therapy, 2022; 102(4): pzab295. 2. Hayashi S, Miyata K, Takeda R, Iizuka T, Igarashi T, Usuda S. Minimal clinically important difference of the Berg Balance Scale and comfortable walking speed in patients with acute stroke: A multicenter, prospective, longitudinal study. Clinical Rehabilitation, 2022; 36(11): 1512-1523. 3. Miyata K, Tamura S, Kobayashi S, Takeda R, Iwamoto H. Berg Balance Scale is a valid measure for plan interventions and for assessing changes in balance in patients with stroke. Journal of Rehabilitation Medicine, 2022; 54: jrm00359.
助教 山本 哲 yamamotos@ipu.ac.jp	神経生理学的手法を用いた中枢神経障害患者における基礎・臨床的研究 ウェアラブル歩行測定システムのリハビリテーション臨床への組み込み 生活期における身体活動量増大を目指した統合的なウェアラブル測定システムの開発	1. Yamamoto S, Ishii D, Ichiba N, Yozu A, Kohno Y. Cathodal tDCS on the motor area decreases the tactile threshold of the distal pulp of the hallux. Neurosci Lett. 2020;719:133887. 2. Yamamoto S, Ishii D, Ishibashi K, Kohno Y. Transcranial Direct Current Stimulation of the Dorsolateral Prefrontal Cortex Modulates Cognitive Function Related to Motor Execution During Sequential Task: A Randomized Control Study. Frontiers in Human Neuroscience. 2022;16. 3. Yamamoto S, Ishii D, Kanai K, et al. The Progress of the Gait Impairment and Brain Activation in a Patient with Post-stroke Hemidystonia. Phys Ther Res. 2021;24:176-186.

指導教員と研究概要（理学療法学領域） その2

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 河野 豊 kohno@ipu.ac.jp	ニューロリハビリテーションに関する研究	1. Kiyoshige Ishibashi, Daisuke Ishii, Satoshi Yamamoto, Akira Noguchi, Kenya Tanamachi, Yutaka Kohno. Opposite modulations of corticospinal excitability by intermittent and continuous peripheral electrical stimulation in healthy subjects. <i>Neurosci Lett.</i> 2021. Vol. 740, 135467.
	経頭蓋磁気刺激による誘発脳波に関する研究	2. 河野 豊, 関口 浩文, 中島 八十一. TMSによる短潜時誘発脳波と高次脳機能障害診断. <i>臨床脳波</i> 48(11), 671-684, 2006
	神経難病患者の支援に関する研究	3. 園部律子, 石塚明美, 宇佐美あき子, 森本百合子, 河野 豊. 茨城県難病相談支援センターにおける就労相談事業の取り組みと今後の課題、難病と在宅ケア, 2021, 27(8), 5-8
教授 松元 秀次 matsumotosh@ipu.ac.jp	臨床神経生理学をリハビリテーション医療へ応用した研究	1. Matsumoto S, Shimodozono M, Noma T, Miyara K, Onoda T, Ijichi R, Shigematsu T, Satone A, Okuma H, Seto M, Taketsuna M, Kaneda H, Matsuo M, Kojima S, The Rally Trial Investigators. Effect of Functional Electrical Stimulation in Convalescent Stroke Patients: A Multicenter, Randomized Controlled Trial. <i>J Clin Med.</i> 12(7):2638, 2023.
	リハビリテーションロボット開発に関する研究	2. Tamaoki S, Matsumoto S, Sasa N, Hoei T, Tojo R, Nakamura T, Aoyagi Y. Effects of sodium bicarbonate bath on the quality of sleep: An assessor-blinded, randomized, controlled, pilot clinical trial. <i>Complement Ther Clin Pract.</i> 50:101714, 2023.
	温熱療法をリハビリテーション医療へ応用した研究	3. Sasa N, Matsumoto S, Kamata G, Hoei T, Aoyagi Y. Development of a Functional Bridge Test for Screening Impairments and Disabilities in Hemiplegic Patients with Acute Stroke while on the Bed. <i>Prog Rehabil Med.</i> 7:20220059, 2022.
教授 六崎 裕高 mutsuzaki@ipu.ac.jp	変形性関節症における歩行解析・CT-FEM・筋発揮張力を融合させた新しい病態評価方法と病期進行シミュレーション方法の開発	1. Watanabe K, Mutsuzaki H, Fukaya T, Aoyama T, Nakajima S, Sekine N, Mori K. Development of a knee joint CT-FEM model in load response of the stance phase during walking using muscle exertion, motion analysis, and ground reaction force data. <i>Medicina (Kaunas).</i> 2020; 56(2): 56
	運動器疾患（変形性関節症、小児脳性麻痺、脊髄損傷等）におけるロボットリハビリテーション介入後の安全性・有効性評価	2. Koseki K, Mutsuzaki H, Yoshikawa K, Iwai K, Hashizume Y, Nakazawa R, Kohno Y. Early recovery of walking ability in patients after total knee arthroplasty using a hip-wearable exoskeleton robot: A case-controlled clinical trial. <i>Geriatr Orthop Surg Rehabil.</i> 2021; 12:21514593211027675
	障がい者スポーツにおけるMRIと動作解析を用いた上肢疾患発生メカニズムの解明と治療・リハビリテーションの開発	3. Sakai M, Mutsuzaki T, Shimizu Y, Okamoto Y, Yatabe K, Muraki I, Nakajima K. Characteristic MRI findings of shoulder, elbow, and wrist joints in wheelchair user. <i>Front Sports Act Living.</i> 2022, 4:926542.
教授 井田 博史 idahi@ipu.ac.jp	立位・歩行バランスを保持するための姿勢調節	1. Ida H, Mohapatra S, Aruin AS. Perceptual distortion in virtual reality and its impact on dynamic postural control. <i>Gait Posture.</i> 2022, 92:123-128.
	ヴァーチャル空間における知覚運動制御	2. Ida H, Fukuhara K, Ogata T. Virtual reality modulates the control of upper limb motion in one-handed ball catching. <i>Front Sports Act Living.</i> 2022, 4:926542.
	スポーツ場面における予測判断スキルやアスリートのハイパフォーマンス動作の動力学的解析	3. Ida H, Fukuhara K, Ishii M, Inoue T. Anticipatory judgements associated with vision of an opponent's end-effector: An approach by motion perturbation and spatial occlusion. <i>Q J Exp Psychol.</i> 2019, 72(5):1131-1140.
教授 内田 敦子 uchidaat@ipu.ac.jp	末梢神経障害で特徴的にみられる細胞骨格蛋白の動態解析、および新素材、治療法開発への応用	1. Uchida A, Peng J and Brown A. Regulation of neurofilament length and transport by a dynamic cycle of phospho-dependent polymer severing and annealing. <i>Mol Biol Cell (ASCB)</i> 2023 Jun 1;34(7):ar68.
	神経損傷時における細胞骨格蛋白の細胞内動態可視化技術の開発、および臨床分野での利用法の検討	2. Stone EJ, Uchida A, and Brown A. Charcot-Marie-Tooth Disease Type 2E/1F Mutant Neurofilament proteins assemble into Neurofilaments. <i>Cytoskeleton (Hoboken)</i> 2019 Jul;76(7-8):423-439
	細胞骨格蛋白に関連する軸索変性疾患の発症機構、ならびにバイオマーカーの探索	3. Walker CL*, Uchida A*, Li Y, Trivedi N, Fenn JD, Monsma PC, Lariviere RC, Julien JP, Jung P, Brown A. Local Acceleration of Neurofilament Transport at Nodes of Ranvier. <i>J Neuroscience</i> 2019 39(4):663-677 4. Uchida A, Monsma P, Fenn JD, Brown A. Live-cell imaging of neurofilament transport in cultured neurons. <i>Methods Cell Biol.</i> 2016;131:21-90 5. Uchida A, Çolakoglu G, Wang L, Monsma PC and Brown. A Dynamic regulation of neurofilament length by a cycle of severing and end-to-end annealing. <i>Proc Natl Acad Sci USA</i> 2013

指導教員と研究概要（作業療法学領域）

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 久保田 茂希 kubotashi@ipu.ac.jp	上下肢装着型ロボットを使用したロボット訓練の安全性に関する研究	1. Koda M, Kubota S, Kadone H, Miura K, Funayama T, Takahashi H, Yamazaki M. Robotic rehabilitation therapy using Hybrid Assistive Limb (HAL) for patients with spinal cord lesions: a narrative review. North American Spine Society Journal (NASSJ). 2023, 14, 100209. 2. Kubota S, Kadone H, Shimizu Y, Takahashi H, Koda M, Miura K, Watanabe H, Suzuki K, Hada Y, Sankai S, Yamazaki M. Robotic shoulder rehabilitation with the Hybrid Assistive Limb in a patient with delayed recovery after postoperative C5 palsy: a case report. Front Neurol. 2021 14;12:676352. 3. 久保田茂希, 門根秀樹, 清水如代, 國府田正雄, 山崎正志. 上肢機能障害に対する装着型肩関節ロボットを用いた新たなロボットリハビリテーション治療. 別冊整形外科. 南江堂. 2022, 82号 Page35-40
	上肢ロボットを使用したロボット訓練の有効性と電気生理学的評価に関する研究	
	脊髄損傷者に対するロボット訓練の実行可能性、有効性に関する研究	
教授 齋藤 さわ子 saitos@ipu.ac.jp	作業の習得・再習得に関する研究	1. Sawako Goto, Anne G. Fisher, Wanda L, Mayberry: The assessment of motor and process skills applied cross-culturally to the Japanese. The American Journal of Occupational Therapy, 50(10), 798-806, 1996. 2. 齋藤さわ子, 坂上真理, 向井聖子, 若井亜矢子, 村井真由美: 施設高齢者のしたい作業とその作業をしない理由. 作業科学研究2, 18-25, 2008. 3. 金野達也, 齋藤さわ子: 元プロサッカー選手がサッカー関連以外の仕事をするまでの作業的移行—仕事間における意味と機能のつながりに焦点を当てて—. 日本保健科学学会誌 2019;22:119-134
	作業の意味・形態・機能と健康・幸福の関係に関する研究	
	作業を基盤とした評価法の開発とその実践における有用性の研究	
教授 白石 英樹 shiraishih@ipu.ac.jp	身体障害に対する作業療法（作業活動）介入の治療的効果及び波及的効果に関する研究	1. 白石英樹, 龜山佳奈多. 対象者の「やりたい活動」をさせることへのリスク管理について—客観的反応と主観的反応の分析より—. 茨城県立医療大学紀要
	様々な定量的測定機器を用いた活動分析に関する研究	2. 白石英樹, 村木敬明, 堀田和司, 藤田好彦. 手の遠位横アーチ（第2～第5中手骨）の制限が手指巧緻動作に及ぼす影響. 日本手外科学会雑誌
	手の機能やスプリント・装具の療法的介入に関する研究	
教授 堀田 和司 hotta@ipu.ac.jp	介護予防（転倒・認知症予防）に関する研究	1. 徳永智史, 堀田和司, 藤井啓介, 岩井浩一, 松田智行, 藤田好彦, 若山修一, 大藏倫博. アパシーが地域在住高齢者の身体活動量に及ぼす影響. 日本ヘルスプロモーション理学療法研究 2020;10(2):73-79
	地域包括ケアシステムにおける街づくりに関する研究	2. 堀田和司, 奥野純子, 深作貴子, 柳久子. 老老介護の現状と主介護者の介護負担感に関連する要因. 日本プライマリ・ケア連合学会誌, 33(3), 256-265
	在宅介護に関する研究	
准教授 石井 大典 ishiid@ipu.ac.jp	脳損傷後に生じる体性感覚伝導路の可塑性変化（左右連絡の形成）と機能回復との関連	1. Daisuke Ishii, Kiyoshige Ishibashi, Kotaro Takeda, Hiroshi Yuine, Satoshi Yamamoto, Yuki Kaku, Arito Yozu, Yutaka Kohno. Interaction of the Left-Right Somatosensory Pathways in Patients With Thalamic Hemorrhage: A Case Report. Front Hum Neurosci. 2021 15:761186. 2. Daisuke Ishii, Hironobu Osaki, Arito Yozu, Kiyoshige Ishibashi, Kenta Kawamura, Satoshi Yamamoto, Mariko Miyata, Yutaka Kohno. Ipsilesional spatial bias after a focal cerebral infarction in the medial agranular cortex: A mouse model of unilateral spatial neglect. Behavioural Brain Research. 2021 401. 3. 石井大典, 大野卓也, 三輪敦子, 石田明香, 岸本毅. 認知行動療法的アプローチを用いた作業療法により統合失調症者の活動性低下が改善した1症例. 千葉作業療法 5(1) 39-45 2016
	若年半側空間無視モデルマウスで特異的に発現する脳内分子の同定と治療応用の検討	
	非侵襲的脳刺激法を用いた恐怖記憶の再固定化阻害とその消去法の確立	
准教授 藤田 好彦 fujitay@ipu.ac.jp	介護予防事業における介入効果に関する研究	1. 藤田好彦, 堀田和司, 若山修一, 巻直樹, 中野聡子, 藪下典子, 柳久子. 3軸加速度センサーを用いた通所型介護予防事業対象高齢者における身体活動の検討. 理学療法科学 2020;35(1):95-100
	地域高齢者における身体活動に関する研究	2. 藤田好彦, 高田祐, 久保田智洋, 堀田和司, 中村茂美, 奥野純子, 柳久子. 生活活動度計(A-MES)を用いた地域在住虚弱高齢者の生活活動度の検討. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2014 37(3):212-218
准教授 若山 修一 wakayamas@ipu.ac.jp	地域高齢者における閉じこもり予防・支援に関する研究	1. 若山修一, 堀田和司, 藤田好彦, 藤井啓介, 白石英樹, 藪下典子, 巻直樹, 中野聡子, 柳久子. 地域在住高齢者における外出記録表を用いた外出支援プログラムの効果. ヘルスプロモーション理学療法研究 2020 9(4):167-173
	地域高齢者における生活機能向上プログラムの開発に関する研究	2. Shuichi Wakayama, Yoshihiko Fujita, Keisuke, Fujii, Takeshi Sasaki, Hiroshi Yuine, Kazushi Hotta. Skeletal Muscle Mass and Higher-Level Functional Capacity in Female Community-Dwelling Older Adults. International Journal of Environmental Research and Public Health 2021 18(13):6692
助教 唯根 弘 yuinehi@ipu.ac.jp	上肢機能評価・介入に関する研究	1. Hiroshi Yuine, Hirotaka Mutsuzaki, Yuichi Yoshii, Yukiyo Shimizu, Natsuki Ishida, Taku Yasuda, Koichi Iwai, Kazushi Hotta, Hideki Shiraishi, Kaori Tachibana. Evaluation of hand functions and distal radioulnar joint instability in elite wheelchair basketball athletes: a cross-sectional pilot study. BMC sports science, medicine & rehabilitation 2023 15(1):58-58 2. Hiroshi Yuine, Yuichi Yoshii, Kazuhiro Miyata, Hideki Shiraishi. Quantitative assessment of the course of distal radioulnar joint instability. Hand Therapy 2022 27(3):83-90 3. Hiroshi Yuine, Yuichi Yoshii, Koichi Iwai, Tomoo Ishii, Hideki Shiraishi. Assessment of Distal Radioulnar Joint Stability in Healthy Subjects: Changes with Dominant Hand, Sex, and Age. Journal of Orthopaedic Research 2021 39(9):2028-2035
	課題志向型アプローチ、生活行為向上マネジメントに関する研究	
	作業療法評価・介入のシステムティックレビュー、メタアナリシス	
教授 井出 政行 idema@ipu.ac.jp	経頭蓋磁気刺激誘発脳波を用いた精神症状の評価	*1. Ide M, Ohnishi T, Toyoshima M, 他34名. Excess hydrogen sulfide and polysulfides production underlies a schizophrenia pathophysiology. EMBO Mol Med. 2019 Dec;11(12):e10695. 2. 谷田郎翔, 羽田舞子, 相澤直子, 桶谷雅人, 中島範子, 佐々木銀河, 井出政行. 筑波大学における「発達障害を有する大学生及び大学院生へのショートケアプログラム」の実施. 第8回成人発達障害支援学会(滋賀) 2021年11月6-7日
	精神科デイケアの効果的な施行に関する研究	

指導教員と研究概要（放射線技術科学領域）

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 藤崎 達也 hujisaki@ipu.ac.jp	放射線診断と放射線治療に利用可能なファントム開発に関する研究	1. 藤崎達也, 平岡 武, 齋藤秀敏, 他. 光の影響を考慮した水等価ファントムの試作. 日本医学放射線学会誌2002; 62: 86-91 2. 花田洗一, 布施 拓, 藤崎達也, 他. 高エネルギー電子線の入射電子エネルギースペクトルのLévy分布パラメータの決定および検証. 日本放射線技術学会雑誌2022; 78(5): 1-11
	モンテカルロシミュレーションによる放射線治療技術の高度化に関する研究	
教授 門間 正彦 monma@ipu.ac.jp	MRIによる生体計測に関する研究	1. Maehara M, Monma M, Nitani T, Matsumoto T, Fukuma Y. Optimization of Look-Locker Turbo-Field Echo-Planar Imaging and Evaluation of Its Accuracy in Head and Neck 3D T1 Mapping. Magn Reson Med Sci. 2016; 15(3):288-98. Optimization of inversion time for postmortem short-tau inversion recovery (STIR) MR imaging. 2. Tomoya Kobayashi, Masahiko Monma, Takeshi Baba, Yoshiyuki Ishimori, Seiji Shiotani, Hajime Saitou, Kazunori Kaga, Katsumi Miyamoto, Hideyuki Hayakawa, Kazuhiro Homma. Magnetic resonance in medical sciences. 2014; 13(2):67-72.
	MRIにおける三次元的な幾何学的歪の検討	
	MRI検査時に生じるストレスに関する研究	
准教授 石森 佳幸 ishimori@ipu.ac.jp	MRI画像評価法の最適化に関する研究	1. Ishimori Y, Monma M, Kawamura H. Wide slab is useful for routine quality control of MRI slice thickness. Radiol Phys Technol. 2018; 11(3): 345-352. 2. Ishimori Y, Shimanuki T, Kobayashi T, Monma M. Fast B1 mapping based on double angle method with T1 correction using standard pulse sequence. J Med Phys. 2022; 47(1): 93-98. 3. Y Ishimori, H Kawamura, M Monma. Feasibility of MR perfusion-weighted imaging by use of a time spatial labeling inversion pulse. Radiol Phys Technol. 2013; 6(2): 461-466.
	RF火傷未然防止を目的としたMRIのRF分布測定法の開発	
	既存検査法の応用・改良による、低侵襲で定量性の高い検査技術の開発	
准教授 鹿野 直人 shikano@ipu.ac.jp	中性子捕捉療法(BNCT)によるがん治療への放射性医薬品の臨床・基礎利用に関する研究	1. Shikano N, Y Kanai, K Kawai, J Inatomi, DK Kim, A Ikeda, H Endou. An L-type amino acid transporter-1 specific imaging agent: structure function relationships of radioiodinated tyrosine derivatives. ASVIP 2019; 24:23-28. 2. Shikano N, Kanai Y, Kawai K, Ishikawa N, Endou H. Transport of technetium-99m-MAG3 via rat renal organic anion transporter 1. J Nucl Med 2004 ; 45: 80-85 3. Shikano N, Kawai K, Nakajima S, Nishii R, Flores LG II, Kubodera A, Kubota N, Ishikawa N, Saji H. Renal accumulation and excretion of radioiodinated 3-iodo- α -methyl-L-tyrosine. Ann Nucl Med 2004 ; 18: 225-232 4. Shikano N, Kanai Y, Kawai K, Inatomi J, Kim DK, Ishikawa N, Endou H. Isoform selectivity of 3-125I-iodo- α -methyl-L-tyrosine membrane transport in human L-type amino acid transporters. J Nucl Med 2003; 44: 244-246.
	ガン、脳機能、動脈硬化、腎機能を診断目的とした放射性医薬品の基礎開発	
講師 布施 拓 fuseh@ipu.ac.jp	モンテカルロシミュレーションを用いた医療における被ばく線量の推定と放射線安全管理に関する研究	*1. Determination of scaling factors for a new plastic phantom at 6-15 MeV electron beams. Hiraku Fuse, Koichi Hanada, Tatsuya Fujisaki, Kenji Yasue, Fumihiro Tomita, Shinji Abe. Radiation Physics and Chemistry 193, 2022. 2. Quantification of the temperature equilibrium time of the cavity in parallel-plate-type ionization chambers by thermal analysis. Hiraku Fuse, Soma Hirota, Tatsuya Fujisaki, Shinji Abe, Kenji Yasue, Koichi Hanada, Fumihiro Tomita. Journal of Radiation Research 62(5) 841-845 2021. 3. Design and characteristics of an agar additive polymer gel dosimeter. Hiraku Fuse, Satoshi Oyama, Kenji Yasue, Shotaro Ito, Tomoaki Sato, Tatsuya Fujisaki, Shinji Abe, Katsuhiko Oyama, Akiyoshi Suzuki, Tomoyuki Yoshizawa, Yuiko Kitajima Applied radiation and isotopes. 151 62-66 2019.*
	医療で用いられる放射線計測に関する研究	

出願・受験・その他に関する問い合わせ先

茨城県立医療大学 教務課

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669 番 2

電 話 (029)840-2111 (直通)

取扱時間：月～金 9：00～17：00

(祝休日及び12月29日～1月3日を除く)